

2022 年度以降入学生用

令和 6 (2024) 年度  
講義概要



滋賀県堅田看護専門学校

〒520-0232 滋賀県大津市真野一丁目 12 番 30 号

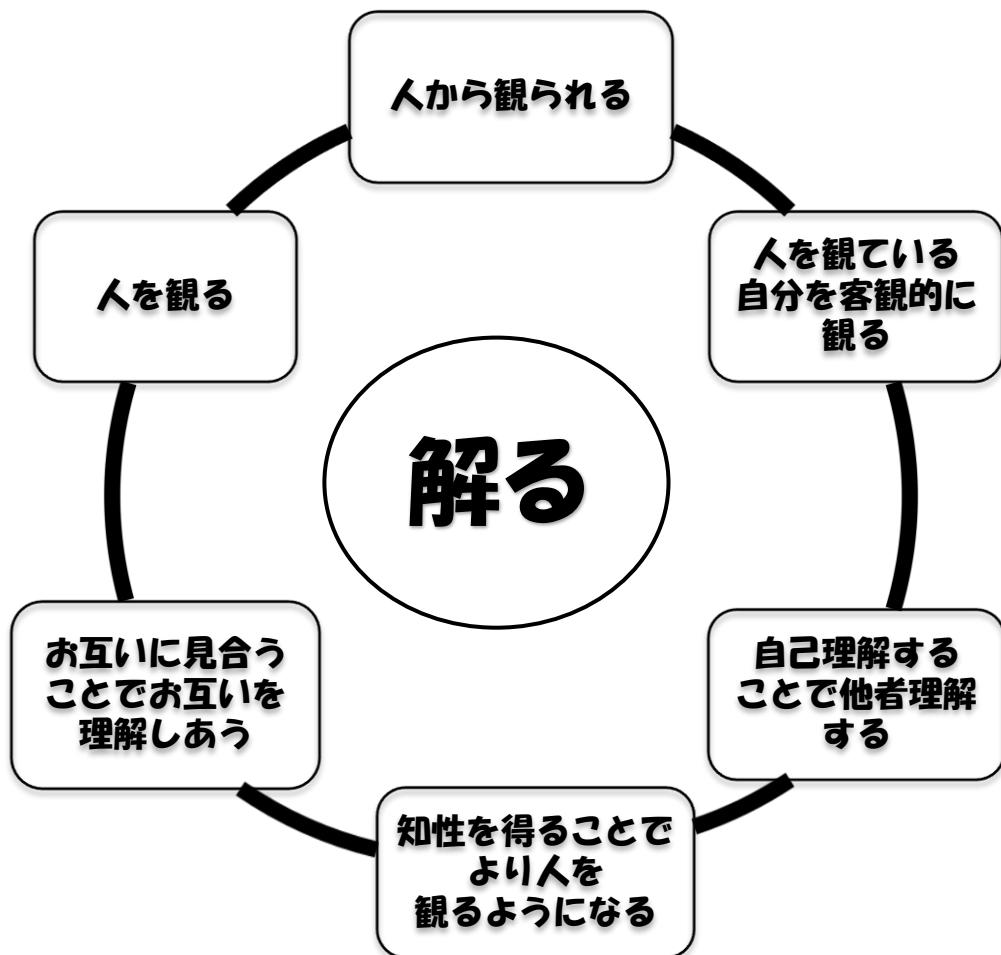
Tel(077)573-8545 / Fax(077)573-8726

# 目 次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 教育理念・教育目標           | 1   |
| 主要概念                | 2   |
| ディプロマ・ポリシー及び年次到達目標  | 3   |
| 教育課程の構造図            | 4   |
| カリキュラムマップ           | 5   |
| 授業科目・履修年次・履修時期・履修条件 |     |
| 2024年度以降入学生用        | 6   |
| 2023年度以前入学生用        | 8   |
| 基礎分野                | 10  |
| 科学的思考の基盤            | 11  |
| 人間と生活社会の理解          | 17  |
| 専門基礎分野              | 25  |
| 人体の構造と機能            | 26  |
| 疾病の成り立ちと回復の促進       | 31  |
| 健康支援と社会保障制度         | 42  |
| 専門分野                | 46  |
| 基礎看護学               | 49  |
| 成人・老年看護学            | 62  |
| 小児看護学               | 72  |
| 母性看護学               | 77  |
| 精神看護学               | 82  |
| 地域・在宅看護論            | 87  |
| 発達段階と健康状態別看護        | 96  |
| 看護の統合と実践            | 103 |

## 教育理念

滋賀県私立病院協会初代会長、加藤 明の教えである「観る 観られる 解る これこそ看護の神髄」を本校の教育理念とし、豊かな人間性と知性を育むとともに、地域社会の保健・医療・福祉の発展に貢献する人材の育成を目的とする。



## 教育目標

1. 尊厳ある命と人格を尊重する態度を養う。
2. 豊かな感性を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的な能力を養う。
4. 保健・医療・福祉におけるチームの一員として、看護の役割を果たす能力を養う。
5. 看護を探究する態度を養う。

## 主要概念

### 人間

- ・人間は身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに統合された全人的な存在である。
- ・人間は生まれながらにして自由平等であり基本的人権を有し、尊厳が護らなければならない。
- ・人間は、生から死まで成長発達しながら自己実現に向かって生きている存在である。
- ・人間は基本的ニードを有しており、そのニードがその人の行動を起こす力となり、自己実現をめざしている。
- ・人間は胎生期から老年期まで環境との相互作用をもち絶えず変化し成長発達する。

### 環境

- ・環境は常に変化するものである。
- ・環境と人間は、相互作用し変化するものである。
- ・環境は内的環境（恒常性）・外的環境（自然環境・社会環境）の統合である。
- ・環境とは人間を取り巻くすべてのもの、また、人間も環境の一部である。

### 健康

- ・健康は身体的、精神的、社会的・スピリチュアルに調和のとれた存在である。
- ・健康は環境に影響を受け流動的に絶えず変化し、常に安寧を図ろうとしている。
- ・健康状態は最良の状態から死に至るまでの連続的な段階がある。
- ・健康は人間が生きていく上での基本的権利であり、誰もが望む状態である。
- ・健康には主観的健康と客観的健康がある。
- ・健康とは人間がその人らしくよりよく生きるための手段である。

### 看護

- ・看護はあらゆる成長・発達段階及び健康レベルにある個人や集団を対象とする。
- ・看護は人間対人間の関わりを大切にし、対象に関心を寄せることから始まる。
- ・看護は科学的根拠に基づいた知識や技術をもって、その人に心を添わせながら、その人が持てる力を最大限に引き出していくものである。
- ・看護は社会の変化に伴う多様なニーズに対応する。
- ・看護は、その人がその人らしくあるように支え、健康の保持・増進・回復、そして生と死に関わることである。
- ・看護は対象のもつ健康上の問題をアセスメントし問題解決する。
- ・看護とは生命の尊厳と人間愛を基盤とするものである。
- ・看護は対象のニードの充足を支援する。
- ・看護は倫理的判断力に基づいた専門的知識と技術と心をあわせもつアートである。
- ・看護は、専門職として独自の機能を有し、保健・医療・福祉チームの中で仲介、調整の役割を担うものである。

### 教育

- ・教育とは学習者の可能性を引き出し、その可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていけるように働きかけることである。
- ・教育とは学習者が目標に向かい、学習に取り組めるよう指し導き働きかけることである。
- ・教育とは、知識・技術・態度を教え、育むことである。
- ・教育は学習者の主体的学習能力を育てるとともに、成長過程において行動の変容を促す。
- ・教育は明確な目的をもち、意図的に学習者に働きかけることである。

## ディプロマ・ポリシー及び年次到達目標

| 教育目標                               | DP  | 1年次   | 2年次  | 3年次   |
|------------------------------------|---|---|--|---|
| 尊敬ある命と人格を尊重する態度を養う                 | DP-1<br>命を守るために最善を尽くし、自分の力を最大限に発揮することができる           | ・命の大切さを理解できる  | ・命を守るための知識、技術を学ぶことができる   | ・命を守るための行動をとることができる   |
|                                    | DP-2<br>人に対して誠実に向き合い、その人の人格をまもることができる               | ・人の話を聴くことができる<br>・他者に関心を持ち、思いやる心の大切さと関係作りの必要性を理解することができる<br>・倫理綱領に基づいた態度を考えることができる  | ・人の話を傾聴し考えることができる<br>・他者に関心を持ち、思いやることができ、関係づくりの方法を考えることができる<br>・倫理綱領を理解し実践を通して自分の考えを述べるることができる。          | ・人のことを考えた行動をとることができる<br>・他者に関心を持ち、思いやることができ、関係を築くことができる<br>・倫理考慮に基づいた態度を身につけることができる |
|                                    | DP-3<br>自分自身も一人の価値ある人間と受け入れ、心身の健康について自己管理できる        | ・「人間」「こころ」とは何かを考え、自分への理解を深めることができる<br>・自分の発達段階や課題を理解することができる<br>・規則正しい生活の必要性を理解することができる<br>・自己を見つめ、自己の傾向について知り、感情をコントロールする必要性が理解できる | ・目標に向かって努力し、達成感を実感することができる<br>・規則正しい生活を行い、学習や睡眠と休息について計画的に考え実行することができる<br>・自己を理解し、感情をコントロールできる           | ・自分を認め役割を果たすことができる<br>・規則正しい生活を継続して行い、心身の健康を保つことができる                                |
|                                    | DP-4<br>その人らしい生活を営むことができるように、対象の持てる力を最大限に生かした実践ができる | ・人間は個別的な存在であることを理解できる。<br>・他者理解を深め、より良い人間関係を築く方法が解る。  | ・その人らしい生活を理解し、対象の持てる力について考えることができる。<br>・対象に合った看護の役割や方法を考え、理解することができる。                                    | ・対象の思いや考えを尊重し、より良い方法を考えた上で、看護の実践ができる  |
| 豊かな感性を養う                           | DP-5<br>様々な物事に関心を寄せ、感動する気持ちを持ち続けることができる             | ・様々な事に興味関心を持てる<br>・感じたこと、考えたことを表現できる<br>・積極的に体験できる  | ・人間の喜びや悲しみを感じ取る事ができる<br>・他者の思いを傾聴し、自己の思いや考えを理解できるように表現できる<br>・色々な角度から物事を考える事ができる                         | ・他者理解を深め、多様な価値観を理解し、より良い関係を築ける<br>・対象の状況に応じたコミュニケーションを実践できる<br>・柔軟な発想で行動できる         |
| 科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的な能力を養う         | DP-6<br>科学的根拠に基づき、その場その時その状況に応じた看護実践ができる            | ・根拠や理論に基づいた考え方ができる<br>・人体の構造と生理機能を理解できる<br>・健康障害が起こるメカニズムが理解できる<br>・根拠に基づく基本的技術が習得できる<br>・事実をありのままに伝える事ができる<br>・看護の場、環境が理解できる       | ・健康段階や発達段階に応じた看護が理解できる<br>・状況に応じた優先順位を考える事ができる   | ・その場その時その状況に応じた看護実践を根拠を持って考え、実践できる  |
|                                    | DP-7<br>看護の対象者の安全・安楽はもとより、精神的にも配慮した看護が実践できる         | ・基礎的な看護技術を安全安楽に行うことができる   | ・対象にとって安全安楽な看護を理解する事ができる<br>・精神的な安寧について考える事ができる  | ・対象にとって安全安楽な看護を実践し、精神的にも対象を支える事ができる   |
| 保健医療福祉におけるチームの一員として、看護の役割を果たす能力を養う | DP-8<br>保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働できる                 | ・様々な職種の役割を理解することができる<br>・リーダーシップ、メンバーシップの役割を理解し行動できる  | ・健康や障害に応じた社会資源の基礎的知識を理解する事ができる<br>・保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解することができる<br>・様々な場面でリーダーシップ、メンバーシップを取り、連携する事ができる | ・様々な場面でリーダーシップ、メンバーシップを取り、連携し協働する事ができる<br>・保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を実践することができる         |
|                                    | DP-9<br>滋賀県における地域医療に対する理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる | ・地域の人々の生活を理解することができる<br>・地域医療とは何かを知ることができる<br>・滋賀県の医療現状を知ることができる  | ・地域の活動に積極的に参加できる<br>・地域住民の保健医療福祉に対するニーズについて理解し必要な支援方法を考えることができる  | ・地域の人々の生活を尊重した看護実践ができる  |
|                                    | DP-10<br>専門職業人としての責任ある行動がとれる                        | ・自己の役割や課題を最後まで責任をもって行うことができる<br>・看護学生としての心構えや態度が理解できる<br>・看護師の役割や責任とは何かを学ぶことができる<br>・看護師に対するニーズを知ることができる                            | ・看護師に対するニーズを理解し責任ある行動とは何かを考える事ができる<br>・看護を取り巻く法律を学ぶことができる  | ・看護実践者としての自覚と責任を持った行動がとれる   |
| 看護を探究する態度を養う                       | DP-11<br>看護の発展を目指し柔軟な考え方で積極的に挑戦することができる             | ・看護について広い視野をもって考えることができる<br>・看護の変遷を理解することができる   | ・看護の役割や人との関りについて、柔軟な発想で考えることができる<br>・自己の看護を探究し挑戦できる  | ・積極的に看護を探究し挑戦し続けることができる<br>・看護について自己研鑽し続けることができる                                    |
|                                    | DP-12<br>自己の資質を向上させるために、主体的に学び続けることができる             | ・学習方法を理解することができる<br>・自己を振り返り課題を理解することができる<br>・計画性をもって学ぶことができる   | ・学習方法を確立することができる<br>・自己の課題に取り組むことができる<br>・計画性をもって継続的に学ぶことができる  | ・自己の課題を解決する能力を身につけることができる<br>・自己研鑽し続けることができる  |

## 教育課程の構造図

|      |              |  |
|------|--------------|--|
| 専門分野 | 看護の統合と実践     | 医療安全<br>問題解決思考の活用と実践Ⅱ<br>国際看護と災害看護<br>臨地実習   |
|      | 発達段階と健康状態別看護 | 問題解決思考の活用と実践Ⅰ<br>薬物療法と看護<br>各発達段階における手術と看護<br>エンド・オブ・ライフ・ケア<br>ファミリーケア<br>ヘルスプロモーション             |
|      | 地域・在宅看護論     | 地域・在宅看護概論<br>地域・在宅看護援助論Ⅰ<br>地域・在宅看護援助論Ⅱ<br>地域における暮らしと環境<br>地域で生活する人と看護<br>臨地実習                   |
|      | 成人・老年看護学     | 成人看護学概論<br>成人看護学援助論Ⅰ～Ⅳ<br>老年看護学概論<br>老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ<br>臨地実習   |
|      | 小児看護学        | 小児看護学概論<br>小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ<br>臨地実習   |
|      | 母性看護学        | 母性看護学概論<br>母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ<br>臨地実習   |
|      | 精神看護学        | 精神看護学概論<br>精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ<br>臨地実習   |
|      | 基礎看護学        | 基礎看護学概論<br>看護管理・看護理論<br>看護研究<br>基本援助技術Ⅰ～Ⅲ<br>生活援助技術Ⅰ・Ⅱ<br>フィジカルアセスメント<br>看護過程<br>臨床看護学総論<br>臨地実習 |

|        |                              |                             |                             |
|--------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 専門基礎分野 | 解剖生理学Ⅰ～Ⅴ<br>病態治療論Ⅰ～Ⅶ<br>医療概論 | 事例から学ぶ病気<br>栄養学と代謝<br>公衆衛生学 | 薬理学<br>微生物学<br>社会福祉<br>関係法規 |
|--------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|

|      |   |                           |  |
|------|---|---------------------------|--|
| 基礎分野 | 思考の基礎<br>コミュニケーション<br>情報科学<br>ライフサイクル論<br>人間関係論 | 哲学<br>社会人基礎力<br>社会学<br>芸術 | 心理学<br>カウンセリング<br>医療英語<br>生命倫理<br>レクリエーション |
|------|---|---------------------------|--|

- DP-1 (命) 命を守るために最善を尽くし、自分の力を最大限に発揮することができる
- DP-2 (倫理) 人に対して誠実に向き合い、その人の人格を守ることができる
- DP-3 (自分) 自分自身も一人の価値ある人間と受け入れ、心身の健康について自己管理できる
- DP-4 その人らしい生活を営むことができるように、対象の持てる力を最大限に生かした実践ができる
- DP-5 様々な物事に興味を寄せ、感動する気持ちを持ち続けることができる
- DP-6 科学的根拠に基づき、その場その時その状況に応じた看護実践ができる
- DP-7 看護の対象者の安全・安楽はもとより、精神的にも配慮した看護が実践できる
- DP-8 保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働できる
- DP-9 滋賀県における地域医療に対する理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援すること
- DP-10 専門職業人としての責任ある行動がとれる
- DP-11 看護の発展を目指し柔軟な考えで積極的に挑戦することができる
- DP-12 自己の資質を向上させるために、主体的に学び続けることができる

3年次



- 関係法規
- 公衆衛生学
- 医療英語
- 解剖生理学V
- カウンセリング

- 看護の統合実習
- 問題解決思考の活用と実践II
- さまざまな看護を知る実習
- 成人・老年看護学実習II
- 小児看護学実習
- 母性看護学実習
- 精神看護学実習
- 地域・在宅看護論実習

- 看護管理・看護理論
- 国際看護と災害看護

2年次

- 社会福祉
- 心理学

- 成人・老年看護学実習I
- 成人看護学援助論I 老年看護学援助論I
- 成人看護学援助論II 老年看護学援助論II
- 成人看護学援助論III 老年看護学援助論IV
- 小児看護学概論
- 小児看護学援助論I 小児看護学援助論II
- 母性看護学概論
- 母性看護学援助論I 母性看護学援助論II
- 精神看護学概論
- 精神看護学援助論I 精神看護学援助論II

- 地域・在宅看護概論
- 地域・在宅看護援助論
- 地域・在宅看護援助論
- 地域で生活する人と看護実習
- 地域で生活する人と看護

1年次

- 医療安全
- 臨床看護学総論
- 基礎看護学実習II
- 基本援助技術II
- 基本援助技術III
- 看護研究
- 基礎看護学実習I
- フィジカルアセスメント
- 看護過程
- 基本援助技術I
- 生活援助技術I~II
- 看護の場を知る実習

- 病態治療論VII
- 栄養学と代謝
- 事例から学ぶ病気
- 病態治療論I~VI
- 解剖生理学I~IV
- 微生物学
- 薬理学

- 問題解決思考の活用と実践I
- 薬物療法と看護
- 各発達段階における手術と看護
- エンド・オブ・ライフ・ケア
- ファミリーケア
- ヘルスプロモーション

- 生活する人を知る実習
- 地域における暮らしと環境

- 基礎看護学概論
- 成人看護学概論
- 老年看護学概論

- コミュニケーション
- レクリエーション
- 人間関係論
- 哲学
- ライフサイクル論
- 芸術
- 情報科学
- 社会人基礎力
- 社会学
- 思考の基礎

2024年度

カリキュラムマップ

授業科目・履修年次・履修時期・履修条件（学則第8条第2項）

2024年度以降入学生用

| 教育内容                      | 授業科目        | 単位                      | 時間数                      | 履修年次・履修時期 |    |     |    |     |    | 履修条件（以下の科目を履修していることが必要） |  |  |
|---------------------------|-------------|-------------------------|--------------------------|-----------|----|-----|----|-----|----|-------------------------|--|--|
|                           |             |                         |                          | 1年次       |    | 2年次 |    | 3年次 |    |                         |  |  |
|                           |             |                         |                          | 前期        | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |                         |  |  |
| 基礎分野                      | 科学的思考の基礎    | 思考の基礎                   | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 哲学                      | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 心理学                     | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | コミュニケーション               | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | カウンセリング                 | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 情報科学                    | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 人間と生活社会の理解  | 社会人基礎力                  | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 医療英語                    | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | ライフサイクル論                | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 社会学                     | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 生命倫理                    | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 人間関係論                   | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 芸術                      | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | レクリエーション                | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 専門基礎分野      | 人体の構造と機能                | 解剖生理学Ⅰ（人体の構造・生命現象の基本・免疫） | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
| 解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）        |             |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器） |             |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）       |             |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 解剖生理学Ⅴ                    |             |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 疾病の成り立ちと回復の促進             |             | 事例から学ぶ病気                | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅰ（総論・血液）           | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅲ（消化器および外科疾患・腎泌尿器） | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）          | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅴ（運動器・脳神経）         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅵ（感覚器）             | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）       | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 栄養学と代謝                  | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 微生物学                    | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 薬理学                       |             | 1                       | 30                       |           |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 社会健康支援と関係法規               |             | 医療概論                    | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 公衆衛生学                   | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 社会福祉                    | 2                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             | 関係法規                    | 2                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
| 専門分野                      |             | 基礎看護学                   | 基礎看護学概論                  | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 看護管理・看護理論                | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 看護研究                     | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 基本援助技術Ⅰ                  | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 基本援助技術Ⅱ                  | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 基本援助技術Ⅲ                  | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           |             |                         | 生活援助技術Ⅰ                  | 1         | 30 |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 生活援助技術Ⅱ     |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | フィジカルアセスメント |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 看護過程        |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 臨床看護学総論     |                         | 1                        | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 看護の場を知る実習   |                         | 1                        | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 基礎看護学実習Ⅰ    |                         | 2                        | 60        |    |     |    |     |    |                         |  |  |
|                           | 基礎看護学実習Ⅱ    |                         | 2                        | 60        |    |     |    |     |    |                         |  |  |



| 教育内容      | 授業科目                          | 単位  | 時間数  | 履修年次・履修時期 |    |     |    |     |    | 履修条件（以下の科目を履修していることが必要）   |
|-----------|-------------------------------|-----|------|-----------|----|-----|----|-----|----|---|
|           |                               |     |      | 1年次       |    | 2年次 |    | 3年次 |    |   |
|           |                               |     |      | 前期        | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |   |
| 成人・老年看護学  | 成人看護学概論                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 成人看護学援助論Ⅰ（呼吸器・循環器）            | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 成人看護学援助論Ⅱ（腎泌尿器・内分泌代謝）         | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 成人看護学援助論Ⅲ（脳神経・運動器）            | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 成人看護学援助論Ⅳ（消化器・血液・造血器・免疫アレルギー） | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 老年看護学概論                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 老年看護学援助論Ⅰ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 老年看護学援助論Ⅱ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 成人・老年看護学実習Ⅰ                   | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 基礎看護学実習Ⅱ 地域で生活する人と看護実習  |
|           | 成人・老年看護学実習Ⅱ                   | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>成人看護学概論 老年看護学概論<br>成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣ 老年看護学援助論ⅠⅡ<br>成人・老年看護学実習Ⅰ |
| 成人・老年看護学  | さまざまな看護を知る実習                  | 1   | 40   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>成人看護学概論 老年看護学概論<br>成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣ 老年看護学援助論ⅠⅡ<br>成人・老年看護学実習Ⅰ |
|           | 小児看護学概論                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 小児看護学援助論Ⅰ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 小児看護学     | 小児看護学援助論Ⅱ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 小児看護学実習                       | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>地域で生活する人と看護実習 小児看護学概論 小児看護学援助論ⅠⅡ                          |
|           | 母性看護学概論                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 母性看護学援助論Ⅰ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 母性看護学     | 母性看護学援助論Ⅱ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 母性看護学実習                       | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>地域で生活する人と看護実習 母性看護学概論 母性看護学援助論ⅠⅡ                          |
|           | 精神看護学概論                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 精神看護学援助論Ⅰ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 精神看護学     | 精神看護学援助論Ⅱ                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 精神看護学実習                       | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>地域で生活する人と看護実習 精神看護学概論 精神看護学援助論ⅠⅡ                          |
|           | 地域・在宅看護概論                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 地域・在宅看護援助論Ⅰ                   | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 地域・在宅看護論  | 地域・在宅看護援助論Ⅱ                   | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 地域における暮らしと環境                  | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 地域で生活する人と看護                   | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 生活する人を知る実習                    | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 地域で生活する人と看護実習                 | 2   | 60   |           |    |     |    |     |    | 看護の場を知る実習 生活する人を知る実習<br>基礎看護学実習Ⅱ  |
|           | 地域・在宅看護論実習                    | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦ<br>地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論ⅠⅡ<br>地域で生活する人と看護実習                   |
|           | 健康発達段階と看護                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 問題解決思考の活用と実践Ⅰ                 | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 健康発達段階と看護 | 薬物療法と看護                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 各発達段階における手術と看護                | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | エンド・オブ・ライフ・ケア                 | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | ファミリーケア                       | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | ヘルスプロモーション                    | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 医療安全                          | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
| 統合と実践     | 問題解決思考の活用と実践Ⅱ                 | 2   | 45   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 国際看護と災害看護                     | 1   | 30   |           |    |     |    |     |    |   |
|           | 看護の統合実習                       | 2   | 80   |           |    |     |    |     |    | 全ての実習   |
|           | 合計                            | 102 | 3015 |           |    |     |    |     |    |   |

\*履修時期（前期・後期）については変更になる場合があります

授業科目・履修年次・履修時期・履修条件（学則第8条第2項）

2023年度以前入学生用

| 教育内容        | 授業科目                      | 単位      | 時間数 | 履修年次・履修時期 |    |     |    |     |    | 履修条件（以下の科目を履修していることが必要） |  |
|-------------|---------------------------|---------|-----|-----------|----|-----|----|-----|----|-------------------------|--|
|             |                           |         |     | 1年次       |    | 2年次 |    | 3年次 |    |                         |  |
|             |                           |         |     | 前期        | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |                         |  |
| 基礎分野        | 科学的思考の基礎                  | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 哲学                        | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 心理学                       | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | コミュニケーション                 | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | カウンセリング                   | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 情報科学                      | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 社会人基礎力                    | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 医療英語                      | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | ライフサイクル論                  | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 社会学                       | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 生命倫理                      | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 人間関係論                     | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 芸術                        | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | レクリエーション                  | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 専門基礎分野      | 解剖生理学Ⅰ（人体の構造・生命現象の基本・免疫）  | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）        | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器） | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）       | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 解剖生理学Ⅴ                    | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 事例から学ぶ病気                  | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅰ（総論・血液）             | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅲ（消化器及び外科疾患・腎・泌尿器）   | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）            | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅴ（運動器・脳神経）           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅵ（感覚器）               | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）         | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 栄養学と代謝                    | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 微生物学                      | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 薬理学                       | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 健康支援と                     | 医療概論    | 1   | 15        |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 社会保障制度                    | 公衆衛生学   | 1   | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |
|             |                           | 社会福祉    | 2   | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |
|             |                           | 関係法規    | 2   | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |
|             | 専門分野                      | 基礎看護学概論 | 1   | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |
|             |                           | 看護研究    | 1   | 30        |    |     |    |     |    |                         |  |
| 基本援助技術Ⅰ     |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 基本援助技術Ⅱ     |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 基本援助技術Ⅲ     |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 生活援助技術Ⅰ     |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 生活援助技術Ⅱ     |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| フィジカルアセスメント |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 看護過程        |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 看護管理・看護理論   |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 臨床看護学総論     |                           | 1       | 15  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 看護の場を知る実習   |                           | 1       | 30  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 基礎看護学実習Ⅰ    |                           | 2       | 60  |           |    |     |    |     |    |                         |  |
| 基礎看護学実習Ⅱ    |                           | 2       | 60  |           |    |     |    |     |    |                         |  |

| 教育内容          | 授業科目                          | 単位        | 時間数  | 履修年次・履修時期 |    |     |    |     |    | 履修条件（以下の科目を履修していることが必要）   |  |
|---------------|-------------------------------|-----------|------|-----------|----|-----|----|-----|----|---|--|
|               |                               |           |      | 1年次       |    | 2年次 |    | 3年次 |    |   |  |
|               |                               |           |      | 前期        | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |   |  |
| 成人・老年看護学      | 成人看護学概論                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 成人看護学援助論Ⅰ（呼吸器・循環器）            | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 成人看護学援助論Ⅱ（腎泌尿器・内分泌代謝）         | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 成人看護学援助論Ⅲ（脳神経・運動器）            | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 成人看護学援助論Ⅳ（消化器・血液・造血器・免疫アレルギー） | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 老年看護学概論                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 老年看護学援助論Ⅰ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 老年看護学援助論Ⅱ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | さまざまな看護を知る実習                  | 1         | 40   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 成人・老年看護学実習Ⅰ                   | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 看護の場を知る実習 生活する人を知る実習<br>基礎看護学実習Ⅱ  |  |
|               | 成人・老年看護学実習Ⅱ                   | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ<br>成人看護学概論 老年看護学概論<br>成人看護学援助論ⅠⅡⅢⅣⅤ 老年看護学援助論ⅠⅡ<br>成人・老年看護学実習Ⅰ |  |
|               | 小児看護学                         | 小児看護学概論   | 1    | 30        |    |     |    |     |    |   |  |
|               |                               | 小児看護学援助論Ⅰ | 1    | 30        |    |     |    |     |    |   |  |
|               |                               | 小児看護学援助論Ⅱ | 1    | 30        |    |     |    |     |    |   |  |
| 小児看護学実習       |                               | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ<br>小児看護学概論 小児看護学援助論ⅠⅡ   |  |
| 母性看護学         | 母性看護学概論                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 母性看護学援助論Ⅰ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 母性看護学援助論Ⅱ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 母性看護学実習                       | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ<br>母性看護学概論 母性看護学援助論ⅠⅡ   |  |
| 精神看護学         | 精神看護学概論                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 精神看護学援助論Ⅰ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 精神看護学援助論Ⅱ                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 精神看護学実習                       | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ<br>精神看護学概論 精神看護学援助論ⅠⅡ   |  |
| 地域・在宅看護論      | 地域・在宅看護概論                     | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 地域・在宅看護援助論Ⅰ                   | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 地域・在宅看護援助論Ⅱ                   | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 地域における暮らしと環境                  | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 地域で生活する人と看護                   | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 生活する人を知る実習                    | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 地域で生活する人と看護実習                 | 2         | 60   |           |    |     |    |     |    | 看護の場を知る実習 生活する人を知る実習<br>基礎看護学実習Ⅱ  |  |
|               | 地域・在宅看護論実習                    | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 解剖生理学ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ 病態治療論ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ<br>地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論ⅠⅡ<br>地域で生活する人と看護の実習                   |  |
| 領域横断          | 問題解決思考の活用と実践Ⅰ                 | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 薬物療法と看護                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 各発達段階における手術と看護                | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | エンド・オブ・ライフ・ケア                 | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | ファミリーケア                       | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | ヘルスプロモーション                    | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
|               | 看護の統合と実践                      | 医療安全      | 1    | 30        |    |     |    |     |    |   |  |
| 問題解決思考の活用と実践Ⅱ |                               | 2         | 45   |           |    |     |    |     |    |   |  |
| 国際看護と災害看護     |                               | 1         | 30   |           |    |     |    |     |    |   |  |
| 看護の統合実習       |                               | 2         | 80   |           |    |     |    |     |    | 全ての実習   |  |
| 合計            |                               | 102       | 3015 |           |    |     |    |     |    |   |  |

\*履修時期（前期・後期）については変更になる場合があります

## 基礎分野 14(360) 本校14(360)

### 基礎分野構築の考え方

基礎分野は「専門基礎分野」および「専門分野」の基礎となる科目を設定する。すなわち「科学的思考の基盤」となる科目、「人間と生活、社会の理解」のための科目から構成される。「科学的、理論的思考にもとづいた看護を实践できる能力を養うための科目は、思考の基礎、哲学、心理学、情報科学、さらに思考するための手段として、コミュニケーション、カウンセリングとした。

また、「人間と生活、社会の理解」については、看護の対象である人間は、社会で生活するかけがえのない一人の人間であることを理解すること、また、国際化及び情報化に対応できる能力を養えること、そして学生が人間性豊かに、主体的に行動できる科目として、社会人基礎力、医療英語、ライフサイクル論、社会学、生命倫理、人間関係論、芸術、レクリエーションとした。

| 教育内容                     | 授業科目      | 単位 | 時間 |
|--------------------------|-----------|----|----|
| 科学的思考の基盤<br>6(165)       | 思考の基礎     | 1  | 30 |
|                          | 哲学        | 1  | 15 |
|                          | 心理学       | 1  | 30 |
|                          | コミュニケーション | 1  | 30 |
|                          | カウンセリング   | 1  | 30 |
|                          | 情報科学      | 1  | 30 |
| 人間と生活<br>社会の理解<br>8(195) | 社会人基礎力    | 1  | 15 |
|                          | 医療英語      | 1  | 30 |
|                          | ライフサイクル論  | 1  | 15 |
|                          | 社会学       | 1  | 30 |
|                          | 生命倫理      | 1  | 30 |
|                          | 人間関係論     | 1  | 30 |
|                          | 芸術        | 1  | 30 |
|                          | レクリエーション  | 1  | 15 |

## 1. 授業科目 思考の基礎

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護の現場では、種々の報告・依頼・記録・連絡・説明等の文章を書き、言葉で伝える場面が多くあります。自分で考え、伝えたいことが、相手に確実に伝わるように書くこと、話すこと、つまり、論理的に表現することが大事になります。そのための基礎力を養うことを目的とします。

**目標** ①論理的に思考することを学び、表現する能力を養う。

②日本語を見直すことによって、思考力・判断力・表現力の基礎となる力をつける。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 論理学について(導入)

第2回 文章(具体例①)を読み、内容を把握して、自分の考えを表現する(演習①)

第3回 論理的思考について(解説)、漢字・熟語演習①

第4回 文章(具体例②)を読み、内容を把握して、自分の考えを表現する(演習②)

第5回 帰納的思考について(解説)、漢字・熟語演習②

第6回 文章(具体例③)を読み、内容を把握して、自分の考えを表現する(演習③)

第7回 演繹的思考について(解説)、漢字・熟語演習③

第8回 文章(具体例④)を読み、内容を把握して、自分の考えを表現する(演習④)

第9回 文章の組み立て方について(解説)、漢字・熟語演習④

第10回 文章(具体例⑤)を読み、内容を把握して、自分の考えを表現する(演習⑤)

第11回 種々の代表的な思考方法について(解説)、漢字・熟語演習⑤

第12回 論題(テーマ①)について、自分の思いや考えを、自分の言葉で表現する(演習⑥)

第13回 レポートの書き方について(解説)、漢字・熟語演習⑥

第14回 論題(テーマ②)について、自分の思いや考えを、自分の言葉で表現する(演習⑦)

第15回 自分を自分の言葉で表現する(演習⑧)

## 6. 授業形式

講義により内容を解説し、その後、学生自身が演習して理解を深める形式で授業を進める。

## 7. 視聴覚機器の活用

特にありません。

## 8. 評価方法

授業内で評価します。演習8回(50%)、漢字・熟語演習6回(30%)、小テスト(20%)

## 9. 教科書

特に指定しません。随時プリントを配布します。

## 10. 参考文献

福沢一吉『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』(2018 医学書院)

因京子『看護現場で役立つ 文章の書き方・磨き方』(2021 日本看護協会出版会)

## 11. 学生へのメッセージ

日本人が常時使っている言葉は、漢字・ひらがな・カタカナ・数字・アルファベット等で表現され、そこに慣用句・熟語・外来語がちりばめられ、さらに看護の場面では看護漢字・看護熟語・医療用語が現れます。皆さんの将来の現場での、読み方・書き方・伝え方を見据えて、簡単な具体例を通して、自分で考え、自分の言葉で表現する練習をしたいと思います。

1. 授業科目 哲学

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

目的 身の回りにある問題について、自分で考えられるようになることです。

目標 考えるために基本的なやり方（概念を作る、推論で考えを組む立てるなど）を習得することです。

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 哲学とは何か — 人生論、科学との違い

第2回 哲学するきっかけ — カラスにつつかれる話

第3回 関心をはっきりさせる — 『マツコの知らない世界』の県境マニアの話

第4回 考える基本 — 哲学に答えはあるか

第5回 問題を立てる — 哲学は役に立つか

第6回 概念を作る — 『デスノート』の夜神くんのやったことは正義か、人生はゲームか

第7回 概念を使う — 『暗殺教室』の殺せんせーに出来ないこと？

第8回 推論 — 人はみんな死ぬ？

試験 45分で実施

6. 授業形式

講義形式（みなさんにあれこれ質問しますから、答えを考えてみてください）

7. 視聴覚機器の活用

なし

8. 評価方法

筆記試験8割、レポート2割

9. 教科書

平尾昌宏『哲学、する？』（萌書房）

10. 参考文献

必要に応じてお知らせします。

11. 学生へのメッセージ

「テツガク」なんて言うと、堅い、難しいと思われがちですが、こんな楽しいことはありません。みんなでやってみましょう。そのために、授業では、アニメやマンガ、ドラマなど、身近な話題を取り上げました。

## 1. 授業科目 心理学

## 2. 担当者名

## 3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護師の仕事は、感情労働であり、ストレスの多い仕事です。この講義では、心理学という学問の学びを通して、看護師として精神的健康を維持して仕事をしていくために、感情のコントロールやストレスへの対処法について学びます。

- 目標**
1. 様々な心理学を通じて、心の世界について学ぶ。
  2. グループワークを通じて、自己・他者理解を深める。
  3. 人として、看護師として、健康に生きるためにストレスマネジメントを学ぶ。

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーション① - 聴くことと伝えること
- 第3回 コミュニケーション② - 聴くことと伝えること
- 第4回 知覚 - 人の感覚の不思議
- 第5回 思考 - 推論・問題解決
- 第6回 発達 - 心の理論と自閉スペクトラム症
- 第7回 学習 - 行動分析とは？
- 第8回 ストレスとは？ - ストレスについて知ろう
- 第9回 ストレスへの対処法 - コーピング方略を増やそう
- 第10回 アンガーマネジメント①
- 第11回 アンガーマネジメント②
- 第12回 認知行動療法① - イラショナルビリーフとは？
- 第13回 認知行動療法② - REBT
- 第14回 認知行動療法③ - REBT
- 第15回 まとめ

## 6. 授業形式

講義 グループワーク 授業内レポート

## 7. 視聴覚機器の活用

動画視聴 DVD パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

授業内レポート

## 9. 教科書

特になし

## 10. 参考文献

講義中に随時紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

皆さんにとって、心理学が楽しく学べる時間にできたらと思っています。

## 1. 授業科目 コミュニケーション

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** コミュニケーションの基本的な理論や技法を学び、対人関係において相手に配慮することや自らの考えや意見を適切に伝えるといった具体的なコミュニケーション力を向上させる。

**目標** 1. コミュニケーションの基礎理念や理論について理解できるようになる  
2. 具体的なコミュニケーションの現場において、適切な行動や言動ができるようになる。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 コミュニケーションとは何か(コミュニケーションの定義や概念を理解する)

第2回 現代社会とコミュニケーション

(現代社会におけるコミュニケーションの特徴や傾向について解説する)

第3回 対人コミュニケーションとは何か

(現代における対人コミュニケーションの意義や役割について解説する)

第4回 なぜミスコミュニケーションは起きるのか

(ミスコミュニケーションのメカニズムを解説する)

第5回 コミュニケーションの分析①

(自己分析シートを用いて、自らのコミュニケーションの特徴や傾向を追及する)

第6回 コミュニケーションの分析②

(会話分析等を用いて、自らのコミュニケーションの特徴や傾向を追及する)

第7回 アサーティブコミュニケーション①(話し方(アサーション)について解説する)

第8回 アサーティブコミュニケーション②(聴き方(傾聴・共感的立場)について解説する)

第9回 集団でのコミュニケーション①(ディベートなどのグループ討議を行う)

第10回 集団でのコミュニケーション②(ディベートなどのグループ討議を行う)

第11回 **Unit1-Hi! My name is Alexis.**

Warm up with some games and the first lesson page

**Unit1.2-Making a Profile**

Learn to ask key questions and create a profile

第12回 **Unit2-Hey! Where are my pens?**

Review Word Bank 2 and the number/counting guide.

Learn how to use the right prepositions and form to ask and answer about where everyday desk items are.

**Unit2.2- Where is it and where does it go?**

Use the word bank and the communication activity page to find things and put things away in the kitchen!

Hurry! Can your team clean up first?

第13回 **Unit3-Oh Brother! Is that the time?**

Review the calendar and time words and learn to compare schedules and understand notices about opening and closing/starting and ending days and times to ask and answer questions. Complete a listening practice.

**Unit3.2-What are you doing this Saturday?**

Review Word Bank 3 and learn to describe our daily activities and routines. Use Activity C to get ideas to plan an event. Post your invitation for the class to consider joining you!

第14回 **Unit 4-Eww! Whose bag is that?**

Use Word Bank 4 to discuss your favorite colors and styles of clothing. Which articles of clothing are singular/plural? Practice using the correct form to ask and answer questions.

**Unit4.2-Gossip!**

Role play the conversation in the unit in pairs or in a small group.

第15回 **Unit5-Wow! Who's that guy?**

Use Word Bank 5 to make sure you are ready to describe people. Use the situations and patterns in the book to describe people in the pictures you see. What can you tell about someone's personality by their clothing style or talents?

**Unit5.2-Who is it?**

Role play the conversation from the text, then make up your own funny conversation about someone famous!

See if your classmates or teacher can guess who it is!

6. 授業形式 講義、演習(グループワーク)

7. 視聴覚機器の活用 パソコン(PowerPoint)、DVD

8. 評価方法 授業内レポート課題

9. 教科書 適宜、資料を配布する

10. 参考文献 適宜、授業中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

コミュニケーションはとても身近な言葉ですが、本当に奥が深く、正解がないものです。こうすれば上手いくというものではないので、常に自分のコミュニケーションの特徴や傾向を意識し、アップデートする意識を持ってください。



## 1. 授業科目 カウンセリング

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** カウンセリングの基礎を理解し、基本的な姿勢を培う。

**目標** カウンセリングの基礎概念や基本姿勢を学び、その実際を理解すること。  
また、実習を通して自分への理解を深めること。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 イントロダクション／カウンセリングにおける専門性—『聴く』こと<実習>聴く

第2回 カウンセリングの枠組み／『見立て』について<DVD>初回面接の実際

第3回 カウンセリングの流派 —ロジャースの理論<実習>聴き方の違い

第4回 カウンセリングの流派 —ロジャースの理論<DVD>面接の実際

第5回 カウンセリングの流派 —フロイトの理論と精神分析①

第6回 カウンセリングの流派 —フロイトの理論と精神分析②

第7回 カウンセリングの流派 —ユングの理論とタイプ論

第8回 カウンセリングの流派 —ユングの理論と<実習>夢分析

第9回 カウンセリングの技法 <実習>描画法①

第10回 カウンセリングの実際 <実習>描画法②

第11回 カウンセリングの技法 箱庭<DVD>箱庭の実際

第12回 カウンセリングの技法 箱庭<実習>コラージュ法

第13回 日本のカウンセリング

第14回 ストレスとの付き合い方

第15回 まとめ<実習>聴く(授業を踏まえて再度挑戦)

試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義形式。適宜、実習やグループワークも行う。

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVDなど。

## 8. 評価方法

筆記試験および、授業ごとに提出する小レポートで評価する。筆記試験9割、小レポート1割。

## 9. 教科書

特になし

## 10. 参考文献

授業の中で適宜紹介する。

## 11. 学生へのメッセージ

カウンセリングについて知識を学ぶこととともに、DVDの視聴や実際の技法体験を通して、より生き活きとカウンセリングをイメージしてもらえたらと思います。

## 1. 授業科目 情報科学

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護における情報リテラシーおよび情報処理の意義を理解し、健康指標の評価に必要な情報処理の基礎を学ぶ

**目標** 1. 生物統計の基礎と情報処理の方法について理解する  
2. 信頼性の高い情報の検索方法を理解する

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 オリエンテーション 情報科学とは 個人情報保護法において
- 第2回 パソコンやUSBの取扱い
- 第3回 演習① Wordとは その基本的操作
- 第4回 演習② Wordの応用操作
- 第5回 演習③ Wordで資料を作成する
- 第6回 演習④ Excelとは その基本的操作
- 第7回 演習⑤ Excelの応用操作
- 第8回 演習⑥ Excelでグラフや表を作成する
- 第9回 演習⑦ WordとExcelのまとめ
- 第10回 演習⑧ PowerPointとは その基本的操作
- 第11回 演習⑨ PowerPointの応用操作
- 第12回 演習⑩ PowerPointでプレゼンテーションをする
- 第13回 演習⑪ 電子カルテとは メリットとデメリット これからの診療の動向
- 第14回 演習⑫ 電子カルテの実際
- 第15回 演習⑬ 電子カルテのまとめ

## 6. 授業形式

講義および演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験7割、演習課題3割

## 9. 教科書

適宜資料を配付します

## 10. 参考文献

できるWord&Excel&PowerPoint2019 (インプレス)  
Excel 最強の教科書 (SBクリエイティブ)

## 11. 学生へのメッセージ

学生のときに便利なパソコンの基本的な操作を習得しましょう。必ずパソコン操作ができる人とそうでない人がペアになって座ってください。医療現場において導入されている電子カルテに対し、スムーズに適応できることも本科目の役割だと思っています。

## 1. 授業科目 社会人基礎力

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

- 目的**
1. 社会人としての基本的な接遇やマナー、集団の中で協働する力など社会に貢献できる資質や能力を身につけさせるとともに、看護師としての倫理や人権意識を養う。
  2. 人権意識を身につける
  3. 医療従事者としての接遇の重要性の認識とコミュニケーション対応力を身につける。
- 目標**
1. 周囲の人と強調しつつ、主体的に業務にかかわることができる。
  2. 自分が関わる対象全ての人権を大切に考えることの必要性がわかる。
  3. 看護する場面で、対象のありたい姿を尊重することの具体が事例から考えることができる。
  4. 日本看護協会 看護職の倫理綱領に触れ、看護職の在り方、看護実践について考える機会とする。
  5. 接遇の基本が理解できる。
  6. 医療接遇の重要性と第一印象の重要性が理解できる。

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 社会人基礎力とは何か(社会人として求められる資質と能力について解説する)
- 第2回 社会人としての接遇やマナー(具体的な所作、言葉遣いなどについて解説する)
- 第3回 社会人基礎力①(「アクション」「シンキング」に関するアクティビティを実践する)
- 第4回 社会人基礎力①(「チームワーク」に関するアクティビティを実践する)
- 第5回 接遇の基本 医療現場での接遇の実際
- 第6回 看護と人権 看護職の倫理綱領から人権について学ぶ
- 第7・8回 事例から、対象の思いを尊重することの必要性を考える  
グループワーク 自分の考えを述べる。人の話を否定しない(肯定する)

## 6. 授業形式

講義、グループワーク

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(パワーポイント資料) 各自の携帯電話を使用する場合もある

## 8. 評価方法

小テスト、授業内レポート課題

## 9. 教科書

よくわかる看護職の倫理綱領(照林社)

## 10. 参考文献

適宜授業中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

看護師という職業人としてだけでなく、社会の構成員の一人としての立場や役割を自覚できるようになってほしいと思っています。

**1. 授業科目** 医療英語

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 3年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目的・目標**

**目的** 看護・医療の現場で使用される英語表現に親しむことで基本的な文法を復習し、英文で記述されている内容を正確に理解する。

**目標** 看護・医療の現場で使用される基礎的な英語表現を習得する。また、それを用いた英語によるコミュニケーション能力を養う。

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 はじめに

第2回 Can you please speak more slowly?

第3回 Where are you from?

第4回 Could you tell me your address, please?

第5回 What department do you want to visit?

第6回 Where is the X-ray department?

第7回 What are your symptoms?

第8回 Where does it hurt?

第9回 Have you ever had any serious illnesses?

第10回 Take one tablet, four times a day.

第11回 DVD鑑賞

第12回 Let me make an appointment for your test.

第13回 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.

第14回 How are you feeling today?

第15回 まとめ

試験 60分で実施

**6. 授業形式**

講義及び演習

**7. 視聴覚機器の活用**

CD、DVD

**8. 評価方法**

筆記試験 90%、課題 10%

**9. 教科書**

クリスティーンのやさしい看護英会話 (医学書院)

**10. 参考文献**

授業で適宜紹介する

**11. 学生へのメッセージ**

英語が使えるようになる、より多くの情報を得ることができるようになります。頑張りましょう。

1. 授業科目 **ライフサイクル論**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

**目的** あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とした看護を実践するための基礎的知識を養う。

- 目標**
1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズについて理解する。
  2. 人のライフサイクルと発達課題について理解する。
  3. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズについて理解する。
  4. 生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズについて理解する。

5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズと看護の関係性

第2回 ライフサイクルから見た子どもの特徴

第3回 ライフサイクルから見た成人の特徴

第4回 ライフサイクルから見た高齢者の特徴

第5回 ライフサイクルから見た親になる人の特徴

第6回 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ

第7回 生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズ

第8回 (45分) まとめ

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論 (医学書院)

看護がみえる vol.5 対象の理解I (メディックメディア)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

看護の対象者はあらゆる年代の人々です。対象理解の基本についてライフサイクル論を通して楽しく学んでいきましょう。

1. 授業科目 **社会学**

2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的** 社会のなかで生きる「人間」に対する理解を深め、様々な社会現象を社会学の視点で分析できるようになる。

身近な社会問題について、主体的に考えられるようになる。

- 目標**
1. 社会学の歴史を学び、各種理論を理解する
  2. 社会の影響を受けている「自分自身」への理解を深める
  3. 社会の中で共に生きる「他者」への理解を深める
  4. 様々な社会現象に関心を持ち、身近な社会問題の解決に向けて主体的に考えることができるようになる

5. 授業内容 〔\* 1回は1コマ (90分) の授業です〕

- 第1回 社会学とは
- 第2回 社会学の歴史①
- 第3回 社会学の歴史②
- 第4回 相互行為、自我、他位・役割など
- 第5回 集団、組織、ネットワーク
- 第6回 ジェンダー①
- 第7回 ジェンダー②
- 第8回 家族・子育て①
- 第9回 家族・子育て②
- 第10回 メディア
- 第11回 ボランティア
- 第12回 地域
- 第13回 科学
- 第14回 社会調査
- 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)、DVD

8. 評価方法

講義内で指示する課題

9. 教科書

特に指定しません。

10. 参考文献

授業中に指示します。

11. 学生へのメッセージ

事前事後学習もしっかり取り組んでください。

## 1. 授業科目 生命倫理

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 将来医療現場が職場となる皆さんが、人間の生と死に関わる倫理的な問題を具体的に理解し、それらの問題に向き合い、自ら考える力をつけることができることを目的とします。

**目標** 医療現場で出会うであろう、様々な倫理的な問題を、自らに直結した問題として捉え、解決する力を身につけることを目標とします。

1. 優生思想がどのようなものであるのかを理解することができる。
2. 優生思想のもたらした過去の事例を理解し、問題を明らかにすることができる。
3. 新型出生前診断がもたらす問題（現在から未来）を理解することができる。
4. 「インフォームド・コンセント」の本質を理解することができる。
5. 緩和ケアと看護の関係を理解することができる。
6. 安楽死・尊厳死の問題点を具体的に理解することができる。
7. 脳死と臓器移植にある問題を具体的に理解することができる。

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 ガイダンス。生命倫理とは何を学ぶのか、言葉の由来から説き起こします。また、災害時のトリアージと避難所生活の倫理

第2回 「優生思想」とは何か。その由来と、そのために過去何が起こったのかを学びます。

第3回 「優生思想」が起こしたこと1：「優生保護法」の成立とその内容を学び、何が問題点だったのかを、「人権」の観点から考えます。

第4回 「優生思想」が起こしたこと2：「らい予防法」の歴史と内容を学び、新型コロナウイルスでの問題点も考えます。

第5回 ドキュメンタリー鑑賞（第1回）「私は生みたかった」（NHK スペシャル）

第6回 「インフォームド・コンセント」とはなにか？その意義を学びます。

第7回 不妊治療と出生前診断：特に新型出生前診断の問題点を考えます。

第8回 ドキュメンタリー鑑賞（第2回）「ダウン症のない世界？」（BS 世界のドキュメンタリー）

第9回 「安楽死」と「尊厳死」1：日本における「安楽死」の事情を考えます。

第10回 「安楽死」と「尊厳死」2：海外の安楽死事情を学び、その問題点を考えます。

第11回 ドキュメンタリー鑑賞（第3回）：「彼女は安楽死を選んだ」（NHK スペシャル）

第12回 「脳死」が人の死であるのかどうかを今一度考えてみよう

第13回 「臓器移植法」を読み、日本の脳死と臓器移植の関係の問題点を考えます。

第14回 ドキュメンタリー鑑賞（第4回）：「家族が最期を決めるとき」（NHK スペシャル）

第15回 緩和ケア：ホスピスに必要なことを2人の医師のあり方から考えます。

試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義形式となります。ドキュメンタリー鑑賞は、それぞれの内容に即したドキュメンタリーを見ていただき、内容に沿ったレポートを書いていただきます。

### 7. 視聴覚機器の活用

Blu-ray プレーヤー（ドキュメンタリー鑑賞の回）

### 8. 評価方法

ドキュメンタリー鑑賞のレポートと筆記試験の総合評価とします。レポートは内容を評価します。毎回の授業を真面目に受け試験に取り組んでいることを重視します。

### 9. 教科書

生命倫理学入門 第4版（産業図書）

安楽死・尊厳死の現在（中公新書）

### 10. 参考文献

授業内で適宜紹介します。

### 11. 学生へのメッセージ

生命倫理は人間の誕生、病、そして死という重い問題を扱う学問です。同時に、看護師という職業を志す皆さんには精神的「根」となる学問でもあります。授業で扱う様々な問題を自らの問題として捉え、特に臨地実習を経験したことを踏まえ、授業に真剣に取り組まれることを望みます。

## 1. 授業科目 人間関係論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 人間関係の基礎理論と諸問題について講義と演習を交えて学習する。基本的な理論については、社会学、心理学、コミュニケーション論の側面から総合的に理解すること、応用的には具体的な人間関係の諸問題を解決すべくコミュニケーション能力を高めていくこと目的とする。

**目標** 現代社会の変化にも注目しながら、医療の現場はもちろん、それらを取り巻く家族や地域社会などの環境における人間関係のさまざまな問題について、意欲と関心を持って考えられるようになること。また、グループワークを通して、他者理解やチームワークのあり方、自分の意見をさまざまな方法で表現する方法を知り、人間関係形成能力を高めていくための技術を習得することを目標とする。

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 ガイダンス／関係的成長ということ～対人関係地図の作成
  - 第2回 人間関係構築の支援～構成的グループエンカウンター
  - 第3回 自己理解～自己理解のための検査法
  - 第4回 相互理解～情報の提供と収集
  - 第5回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(1) 言語・非言語の基礎理論
  - 第6回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(2) コミュニケーションの諸相
  - 第7回 パーソナル・コミュニケーションと学ぶ(3) コーチング理論を使って
  - 第8回 コミュニケーション・スキルを学ぶ
  - 第9回 集団と組織の人間関係(1) アサーションの基本
  - 第10回 集団と組織の人間関係(2) アサーション・トレーニング
  - 第11回 集団と組織の人間関係(3) 集団の機能とリーダーシップ
  - 第12回 チーム医療を学ぶ～チーム医療と医療安全のためのコミュニケーション
  - 第13回 援助的なコミュニケーション(1) カウンセリングの技法
  - 第14回 援助的なコミュニケーション(2) 患者・家族を支える人間関係／終末期
  - 第15回 援助的コミュニケーションの実際
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義を中心に行うが、テーマによっては随時演習形式(グループワーク)も取り入れる。

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、Blu-ray

### 8. 評価方法

筆記試験(60%)、小テスト(20%)、提出物の提出状況と内容(10%)、授業への積極的な参加状況(10%)

### 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 人間関係論(医学書院)

### 10. 参考文献

授業で随時紹介する

### 11. 学生へのメッセージ

小テストは必ず受けること。提出物は必ず提出すること。発表やグループディスカッションでは多くの意見や疑問を交換しあえるよう積極的に参加すること。



1. 授業科目 芸術

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的 音楽** 音楽が人の心や生き方に与える効果を理解し、医療の現場に生かせる知識や技術を身につける。

**硬筆** 硬筆を学ぶことで文字文化に親しみ手書きの利点を生かせる。

**目標 音楽** 音楽の多様性に触れながら、音楽が人にどのような形で働きかけているのかを学び、理解を深めていく。

**硬筆** バランスの整った文字を書くことができ、日常生活で活かすことができる。

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 音楽と自己との関わりを見つめる
- 第2回 生活の中の音楽—童謡・唱歌
- 第3回 音楽の表現—手話で歌おう
- 第4回 音楽療法アプローチ ①— 障害を持つ方への取り組み
- 第5回 音楽療法アプローチ ②— 高齢の方々への取り組み
- 第6回 世界の音楽①
- 第7回 世界の音楽②
- 第8回 まとめ—音楽と医療
- 第9回 線の引き方からカタカナへ (漢字の土台)
- 第10回 漢字の単体
- 第11回 漢字の複合体
- 第12回 行書体の基本とひらがな
- 第13回 たて書きのまとめ方
- 第14回 横書きのまとめ方、数字とアルファベット
- 第15回 まとめ、手書きの価値とは  
試験

6. 授業形式

**音楽** 講義および全体での実技形式

**硬筆** 講義及び実技と個人添削 (人数による)

7. 視聴覚機器の活用

**音楽** ビデオ、DVD、CD

**硬筆** なし

8. 評価方法

**音楽** 筆記試験8割、レポート2割

**硬筆** 毎回の提出物8割、小テスト2割

9. 教科書

**音楽** 適宜、楽譜・プリントを配布する

**硬筆** 適宜、プリントを配布する

10. 参考文献

**音楽** 授業中に紹介する

**硬筆** 書道協会「人間形成における書教育」、「滋賀の書50年のあゆみ」

11. 学生へのメッセージ

**音楽** 音楽を楽しみながら、心豊かに学んでいきましょう。

**硬筆** スマホ、SNSなどのIT社会の中で「字を書くことの意味」「手書き文字の意味」を考えながら取り組んでください。

## 1. 授業科目 レクリエーション

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

**目的** 本科目では、医療・保健・福祉分野におけるレクリエーションの意義、リハビリテーションとレクリエーションの関わり、レクリエーション援助におけるゲームやアクティビティの考え方や実施方法について学び、対象者それぞれに応じた具体的な実施方法について考えます。

**目標**

1. リハビリテーションへのレクリエーションの活用の仕方について理解する。
2. レクリエーション活動の楽しさをとおした心の元気づくりについて理解する。
3. 対象者に応じた楽しいレクリエーション活動を提案して支援できる。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 リハビリテーションにおける作業療法とレクリエーション

第2回 レクリエーションの概念と効果

第3回 レクリエーション援助の実際と注意点① 個人への援助

第4回 レクリエーション援助の実際と注意点② 集団を介した援助

第5回 レクリエーション活動の実際① アイスブレイキング(導入段階)

第6回 レクリエーション活動の実際② アイスブレイキング(交流・発展段階)

第7回 レクリエーション活動の実際③ グループレクリエーション

第8回 まとめ(45分)

試験 45分で実施

## 6. 授業形式

レジュメやワークシートを用いた演習、グループワーク

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、プロジェクター

## 8. 評価方法

筆記試験7割、レポート課題3割

## 9. 教科書

特に指定しない

## 10. 参考文献

楽しさをとおした心の元気づくり：レクリエーション支援の理論と方法

((公財)日本レクリエーション協会)

リハビリテーションとレクリエーション援助(嵯峨野書院)

## 11. 学生へのメッセージ

レクリエーションのさまざまな活動を通して、その考え方や支援の仕方などを楽しく学んでいきましょう。

## 専門基礎分野 22(555) 本校22(555)

### 専門基礎分野構築の考え方

専門基礎分野では「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」について、看護の対象である人体のメカニズムを理解する。そして、人間にとって呼吸をする、食べる、排泄するなどの日常生活行動は、生命活動につながる営みであることを学べる内容とする。特に病態治療論Ⅶ（リハビリテーション）において自立にむけた看護援助ができるよう演習を多く取り入れた内容とする。微生物学においては感染、薬理学において医療安全との関連、栄養学において対象への食事指導など臨地で活用の多いものを学ぶ内容とする。

「健康支援と社会保障制度」については、人々の健康の保持増進をすすめ、生涯を通じて社会資源を活用できるような知識や基礎的な能力を養うような内容とする。保健医療社会福祉についての、理解を深めるため、医療概論・公衆衛生学・社会福祉・関係法規を設定した。

| 教育内容                         | 授業科目                      | 単位 | 時間 |
|------------------------------|---------------------------|----|----|
| 人体の構造と機能<br>5(150)           | 解剖生理学Ⅰ(人体の構造・生命現象の基本・免疫)  | 1  | 30 |
|                              | 解剖生理学Ⅱ(呼吸器・循環器・血液)        | 1  | 30 |
|                              | 解剖生理学Ⅲ(消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器) | 1  | 30 |
|                              | 解剖生理学Ⅳ(運動器・脳神経・感覚器)       | 1  | 30 |
|                              | 解剖生理学Ⅴ                    | 1  | 30 |
| 疾病の成り立ちと<br>回復の促進<br>11(300) | 事例から学ぶ病気                  | 1  | 15 |
|                              | 病態治療論Ⅰ(総論・血液)             | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅱ(呼吸器・循環器)           | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅲ(消化器及び外科疾患・腎泌尿器)    | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅳ(内分泌・免疫)            | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅴ(運動器・脳神経)           | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅵ(感覚器)               | 1  | 30 |
|                              | 病態治療論Ⅶ(リハビリテーション)         | 1  | 15 |
|                              | 栄養学と代謝                    | 1  | 30 |
|                              | 微生物学                      | 1  | 30 |
| 薬理学                          | 1                         | 30 |    |
| 健康支援と<br>社会保障制度<br>6(105)    | 医療概論                      | 1  | 15 |
|                              | 公衆衛生学                     | 1  | 30 |
|                              | 社会福祉                      | 2  | 30 |
|                              | 関係法規                      | 2  | 30 |

**1. 授業科目** 解剖生理学 I (人体の構造・生命現象の基本・免疫)

**2. 担当者名**

**3. 配当学年等** 1 年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目的・目標**

**目的** 看護学の基礎として、人体の構造と機能を理解する

**目標** 1. 解剖生理学の基礎用語を理解して説明することができる

2. 生体の階層構造を理解する

3. エネルギー代謝、体温の調整機構、生体の防御機構を理解する

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 形からみた人体、人体とはどのようなものか、細胞の構造とその構成

第2回 エネルギー代謝、核酸とタンパク質の合成

第3回 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体

第4回 分化した細胞がつくる組織

第5回 細胞と組織 まとめ

第6回 機能からみた人体、ホメオスタシス

第7回 構造・機能からみた人体まとめ

第8回 皮膚の構造と機能

第9回 非特異的防御機構

第10回 特異的防御機構

第11回 免疫の異常、生体防御の関連臓器

第12回 生体の防御機構 まとめ

第13回 代謝と運動

第14回 体温とその調節

第15回 まとめ

試験 60分で実施

**6. 授業形式**

講義形式

**7. 視聴覚機器の活用**

適宜、パワーポイントを使用する

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 (医学書院)

系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)

**10. 参考文献**

講義内で紹介する

**11. 学生へのメッセージ**

解剖生理学では、人体がどのような構造でできているのか、またその構造物がどのように機能して生命を支えているのかを学びます。Iでは、解剖生理学を学ぶための基礎的な知識を身につけるために、まず解剖学・生理学の用語に慣れるとともに、ヒトの体の仕組みとはたらきについて学習しましょう。解剖生理学では覚えなければいけないことがたくさんあります。ワークブックとともに、自分のオリジナルのノートを作って学習を進めることを推奨します。

1. 授業科目 **解剖生理学Ⅱ（呼吸器・循環器・血液）**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**目的 呼吸器** 呼吸に関する器官の構造と機能を理解し生命維持にどのような意義を持つのか学ぶ。  
さらに呼吸器系の病態生理のメカニズムを学ぶ。

**循環器** 循環に係る器官の構造と機能を理解し解剖生理学と疾患との繋がりを知る

- 目標**
1. 呼吸器系の構造を述べることができる
  2. 呼吸器系の機能を説明することができる
  3. 呼吸器系の病態生理を説明することができる
  4. 循環器系の構造と機能を理解する

5. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 ガイダンス・呼吸器系の構造（上気道）
  - 第2回 呼吸器系の構造（下気道と肺）
  - 第3回 呼吸器の機能（呼吸運動）
  - 第4回 呼吸器の機能（呼吸器量・ガス交換）
  - 第5回 呼吸器の機能（呼吸運動の調節）
  - 第6回 呼吸器系の病態生理・まとめ
  - 第7回 血液の組成と機能
  - 第8回 血液の生理
  - 第9回 循環器系の概要
  - 第10回 心臓の構造
  - 第11回 心臓の拍出機能
  - 第12回 抹消循環系の構造
  - 第13回 血液の循環調節
  - 第14回 リンパ系
  - 第15回 血液・循環器系まとめ
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

パソコン（PowerPoint）

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）

系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

10. 参考文献

適宜紹介します。

11. 学生へのメッセージ

**呼吸器** 解剖生理学はこれから皆様が学んでいく疾患、看護の土台となる科目です。予習、復習をしっかりとこない、知識を身に付けていきましょう。わからないところは決してそのままにしないことです。

**循環器** この世に生まれて死ぬまで、休むことなく繰り返される“心臓の拍動”は、みなさんの身体活動に合わせて必要に応じて早くなったり遅くなったりしながら、無意識的に行われています。このような素晴らしい構造と機能を持っている循環器系の仕組みと一緒に学びましょう。臨床においても、採血や点滴、バイタルチェックなど、ここで学ぶ知識は重要となりますので、しっかりと頑張って身に付けていきましょう。

1. 授業科目 **解剖生理学Ⅲ（消化器・内分泌・腎泌尿器・性生殖器）**

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

- 目的** 内分泌の役割を理解し、身体のさまざまな調節機構を知る。  
泌尿・生殖器系の構造と機能を理解し、解剖・生理学と各疾患との繋がりを知る。
- 目標** 消化器系の構造と機能を理解する。  
内分泌系に関係する器官やホルモンの機能を理解する。  
自律神経系の機能と役割を理解する。  
腎・泌尿器系の構造と機能を理解する。  
性・生殖器系の構造と機能を理解する。

5. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 消化器系の役割
  - 第2回 消化管の構造と機能
  - 第3回 膵臓、肝臓と胆路の構造と機能
  - 第4回 消化・吸収と排泄機能
  - 第5回 自律神経の種類・機能と臓器の調整機構
  - 第6回 内分泌系による調節（ホルモンの種類と生理作用・内分泌腺）
  - 第7回 内分泌器官とホルモン（分泌腺と機能）
  - 第8回 腎・泌尿器系の概要
  - 第9回 腎臓の構造と機能
  - 第10回 排尿路の構造と機能並びに体液調節
  - 第11回 性・生殖器系の概要
  - 第12回 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能の違い
  - 第13回 受精と胎児の発生
  - 第14回 成長と老化
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

授業はパソコン（パワーポイント）を使用する。

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）  
系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

10. 参考文献

適宜紹介する

11. 学生へのメッセージ

心や体はホルモンによって調整されています。例えば美味しそうなものを見ただけで胃では胃酸分泌の準備をしますし、食事中や食後は喜びや満足感が得られます。ホルモンを通して心や体のメッセージを学びましょう。また内分泌系は薬剤療法とも関係するので勉強しましょう。

## 1. 授業科目 解剖生理学Ⅳ（運動器・脳神経・感覚器）

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護学の基礎として、人体の構造と機能を理解する

- 目標**
1. 骨格と筋肉の形態・機能を理解する
  2. 中枢・末梢神経・脳の構造と機能を理解する
  3. 特殊感覚器の構造と機能を理解する

## 5. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 骨格・関節・骨格筋
  - 第2回 筋の収縮
  - 第3回 体幹の骨格と筋
  - 第4回 上肢の骨格と筋
  - 第5回 下肢の骨格と筋
  - 第6回 頭頸部の骨格と筋
  - 第7回 運動器 まとめ
  - 第8回 神経系の構造と機能
  - 第9回 運動機能と下行伝導路、感覚器能と上行伝導路
  - 第10回 脊髄と脳
  - 第11回 脊髄神経と脳神経
  - 第12回 脳の高次機能
  - 第13回 眼の構造と視覚、味覚、嗅覚
  - 第14回 耳の構造と聴覚・平衡覚、疼痛
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

適宜、パワーポイントを使用する

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）  
系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック（医学書院）

## 10. 参考文献

講義内で紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

解剖生理学では、人体の構造とその機能を理解することが目標です。Ⅳでは、体を動かすために必要なしくみである運動器と、生命活動を維持したり、運動器が正しく機能したりするのに必要な神経系、体の内外の刺激を受け取る感覚器について学びましょう。運動器・感覚器・脳神経の構造・機能について多くのことを短期間で学びます。自主勉強は必須です。教科書をよく読み、自分自身のノートを作って学習をすすめましょう。

# 1. 授業科目 解剖生理学V

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 病気による症状発生のメカニズムを解剖生理学的に理解することで対象の疾患理解につなげる

**目標** 以下の症状や治療についてメカニズムを解剖生理学的に理解し説明できる  
呼吸が苦しくなる（呼吸が止まる）  
浮腫や腹水が溜まる  
尿が出ない  
人工透析  
意識がない

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

|      |                                    |
|------|------------------------------------|
| 第1回  | 呼吸が苦しくなる（呼吸が止まる）原因やメカニズムを理解する①調べ学習 |
| 第2回  | 〃 ②調べ学習、発表準備                       |
| 第3回  | 〃 ③発表                              |
| 第4回  | 浮腫や腹水が溜まる原因やメカニズムを理解する①調べ学習        |
| 第5回  | 〃 ②調べ学習、発表準備                       |
| 第6回  | 〃 ③発表                              |
| 第7回  | 尿が出なくなる（出にくい）原因やメカニズムを理解する①調べ学習    |
| 第8回  | 〃 ②調べ学習、発表準備                       |
| 第9回  | 〃 ③発表                              |
| 第10回 | 人工透析患者の病態を理解する①調べ学習                |
| 第11回 | 〃 ②調べ学習、発表準備                       |
| 第12回 | 〃 ③発表                              |
| 第13回 | 意識がなくなる原因やメカニズムを理解する①調べ学習          |
| 第14回 | 〃 ②調べ学習、発表準備                       |
| 第15回 | 〃 ③発表                              |
| 試験   | 60分で実施                             |

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

課題 25点、筆記試験 75点

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学（医学書院）  
系統看護学講座 専門分野 成人看護学①～⑪、⑭巻（医学書院）  
病気がみえる vol.2 循環器（メディックメディア）  
病気がみえる vol.4 呼吸器（メディックメディア）

## 10. 参考文献

図書室にある本全て

## 11. 学生へのメッセージ

臨地実習や看護師国家試験にもつながる学習です  
わからない事はとことん調べて、苦手を克服しよう



## 1. 授業科目 事例から学ぶ病気

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目的・目標

**目的** 事例をじっくり読み解くことで、病態をふまえた根拠ある看護援助へつなげる

**目標** 教科書を熟読し、一語一語理解しながら調べることで、事例の疾患について説明できる事例について、必要な情報を収集し、得られた情報から患者の病状の経過を説明できる

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 オリエンテーション

事例紹介(まずは疾患名だけ) 呼吸器の教科書を読み「知りたいこと」を探す  
言葉の意味、理解できない文章等、書きだしていこう

第2回 一般的な病態を理解するために「知りたいこと」をどんどん探し、調べてみよう

第3回 一般的な病態を理解するために「知りたいこと」をどんどん探し、調べてみよう

第4回 どうしても理解できない所の確認 各自で調べる 疾患の説明(学生と教員協働)  
事例の提示(入院中の経過表)

第5回 事例の患者さんの経過表からわかったことを書き出してみよう

第6回 事例の患者さんの病気の経過(検査、症状、治療)に焦点を当てて説明してみよう

第7回 グループの人にAさんの経過を説明してみよう

お互いの説明を聞いて、評価をしよう

第8回 上手な人の説明を聞いて、どのように説明すればいいのか考える

講義を通して自分にどんな力がついたか、考える

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

## 8. 評価方法

課題・発表(講義の初回に詳しく説明します)

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学(医学書院)  
系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器(医学書院)

## 10. 参考文献

図書室にある全ての本

## 11. 学生へのメッセージ

こんなこと聞いたら恥ずかしいという気持ちを捨てて、質問しよう  
ここで理解しなければ、後々困るので、あきらめないで学習しよう  
わかると楽しいですよ

# 1. 授業科目 病態治療論 I (総論・血液)

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 総論** 疾患の原因とその結果生ずる病態、症状との関係を考える力を養う。

**血液** 疾病の成り立ちを理解する

**目標 総論** 疾患を原因別に分類できる。症状の起こる原因を理解する。

**血液** 造血のしくみから造血器疾患およびその治療について理解する。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 病因論 病気の原因の分類
- 第2回 先天性疾患 染色体異常、遺伝子異常
- 第3回 炎症・組織修復 細胞損傷、急性炎症、慢性炎症
- 第4回 代謝障害 糖尿病 高脂血症
- 第5回 循環障害(1) 梗塞、出血等の局所の循環障害
- 第6回 循環障害(2) ショック、DIC等の全身の循環障害
- 第7回 腫瘍 腫瘍の分類、原因
- 第8回 造血のしくみ
- 第9回 赤血球系疾患(貧血など)
- 第10回 造血器悪性腫瘍(主に病態について)
- 第11回 造血器悪性腫瘍(主に治療について)
- 第12回 凝固系および止血のしくみ
- 第13回 輸血細胞治療と HIV 感染症
- 第14回 終末期患者に対する看護
- 第15回 病態の理解を看護につなげる
- 試験 総論、血液 各試験30分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

**総論** パソコン、プロジェクターにてスライドを提示

**血液** パソコン(パワーポイント)

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**総論** 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(1)病理学(医学書院)

**血液** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4)血液・造血器(医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**総論** 始めに疾患に共通する病態を勉強しておく、個々の疾患を勉強するときに想像、応用しやすくなると思います。わからないことは質問してください。

**血液** 講義に実際の症例をとり入れ、将来看護師になられるための動機づけになるような講義にしたいと思っています。

難しくみえる事もわかりやすく、そして国家試験につながる講義を目指します。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅱ（呼吸器・循環器）

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 呼吸器** 呼吸器疾患の解剖・生理・病態について学び、理解を深める。

**循環器** 循環器システムの基礎と病態について理解を深める

**目標 呼吸器** ・呼吸器疾患の原因・症状・治療について理解する。

・呼吸器疾患の解剖・生理を理解する。

・呼吸器疾患患者の特徴を理解し、看護に反映させる。

**循環器** ・病棟や外来での看護業務において必要な循環器の検査や疾患の知識を修得する。

## 5. 授業内容〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

第1回 第2章 呼吸器の構造と機能、第3章 症状とその病態生理 **A** 自覚症状

第2回 第3章 **B** 他覚症状、第4章 検査と処置 **A**、**B** 検査①～⑤

第3回 第4章 検査と治療 **B** ⑥～ **C** ②

第4回 第4章 検査と治療 **C** ③～、第5章 疾患の理解 **A** 感染症①～②

第5回 第5章 疾患の理解 **A** ③～ **E** ⑧

第6回 第5章 疾患の理解 **C** 気道疾患①～③、**D** 肺血栓塞栓症①～③

第7回 第5章 疾患の理解 **E** 呼吸不全～ **K** 胸部外傷①～④

第8回 循環器概論

第9回 循環器生理学、循環器診断学、循環器疾患の主要症候

第10回 循環器疾患の検査

第11回 心不全の病態・検査・治療、動脈硬化、虚血性心疾患

第12回 虚血性心疾患、不整脈の診断

第13回 不整脈の検査・治療

第14回 心臓弁膜症、心内膜炎

第15回 心筋疾患、心膜疾患、動脈疾患、先天性心疾患

試験 講師ごとに30分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

**呼吸器** OHP（講師作成プリントを使用）

**循環器** スライド（PowerPoint）

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**呼吸器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器（医学書院）

病気がみえる vol.4 呼吸器（メディックメディア）

**循環器** 病気がみえる vol.2 循環器（メディックメディア）

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**呼吸器** テキストの説明はもちろん、現場で役に立つ、又は、必要な知識も講義します。

**循環器** 心電図などに苦手意識を持たないように、一緒に勉強していきましょう。

1. 授業科目 病態治療論Ⅲ（消化器及び外科疾患・腎・泌尿器）

2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

目的 疾患の成り立ちを理解する

- 目標
- |              |  |
|--------------|--|
| <b>消化器</b>   | 1. 消化器疾患の病態を理解する。<br>2. それぞれの疾患に対する治療方法を理解する。<br>3. 治療を受けられる患者様の看護について考える。 |
| <b>腎・泌尿器</b> | 1. 腎・泌尿器の解剖・生理の理解<br>2. 一般的な腎・泌尿器疾患の病態生理の理解<br>3. 各種の腎・泌尿器疾患の理解            |

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 上部消化管疾患（食道、胃・十二指腸）
  - 第2回 下部消化管疾患①（小腸、大腸）
  - 第3回 下部消化管疾患②（大腸、肛門）
  - 第4回 急性腹症
  - 第5回 肝疾患
  - 第6回 胆道疾患
  - 第7回 膵疾患、乳腺疾患
  - 第8回 腎・泌尿器の解剖・生理
  - 第9回 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
  - 第10回 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理
  - 第11回 腎・泌尿器疾患の検査と治療
  - 第12回 腎疾患の理解
  - 第13回 腎・泌尿器疾患の理解
  - 第14回 泌尿器疾患の理解
  - 第15回 病態の理解を看護につなげる
- 試験 消化器及び外科疾患、腎泌尿器 各30分で実施

6. 授業形式

講義形式、必要な際にはパソコンによるプレゼンテーションを行う。

7. 視聴覚機器の活用

必要な際にはパソコンを使用する。

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

- |              |                                  |
|--------------|----------------------------------|
| <b>消化器</b>   | 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5)消化器（医学書院）   |
| <b>腎・泌尿器</b> | 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器（医学書院） |

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

**消化器** 疾患の治療は医師がしますが、看護をする上において、十分な疾患の理解、それぞれの疾患に対する治療法を知らなければ、いい看護はできないと思います。疾患および治療を理解することはむずかしいとは思いますが、頑張りましょう。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅳ（内分泌・免疫）

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 内分泌** 人間は環境の様々な変化=穏やかな環境から過酷な環境の変化にも調和し安定した状態を維持しまた成長を続ける。それはどうしてかを学ぶ。

**免疫** 人間が長寿であるのは免疫機構が高度に発達しているからである。しかしアレルギーや膠原病は免疫機構が引き起こす。どこに違いがあるのか？

**目標 内分泌** 1. 内分泌の意味・働きを理解する。  
2. 内分泌の異常による疾患を理解する。

**免疫** 1. 免疫のシステムの基礎を理解する。  
2. 免疫の異常による疾患、アレルギー疾患を理解する。  
3. 多くの膠原病が身近であることを知る。  
4. 免疫の隙間をついた形で現れる感染症、エイズについて学ぶ。

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 内分泌の仕組み、概念
  - 第2回 内分泌臓器各論、下垂体疾患、甲状腺疾患
  - 第3回 内分泌臓器各論、副甲状腺疾患、副腎疾患
  - 第4回 糖尿病の概念、症状、診断、治療
  - 第5回 糖尿病慢性合併症
  - 第6回 糖尿病急性合併症、シックデイ、低血糖
  - 第7回 脂質代謝、尿酸代謝
  - 第8回 免疫の概念、仕組み
  - 第9回 免疫に関与する臓器、細胞、免疫反応
  - 第10回 アレルギー反応、アレルギー反応の型（1型、2型、3型、4型）
  - 第11回 免疫反応の異常とそれによる疾患
  - 第12回 自己免疫疾患の意味、メカニズム。症状、検査
  - 第13回 全身エリテマトーデス、全身性進行性硬化症、その他の膠原病
  - 第14回 エイズの病態、症状、検査、および免疫学的問題
  - 第15回 病態の理解を看護につなげる
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

**内分泌** 特に使用しない

**免疫** パソコン（PowerPoint）使用

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**内分泌** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝（医学書院）

**免疫** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11)アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

1. 授業科目 病態治療論Ⅴ（脳神経・運動器）

2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

**脳神経** 医療スタッフとして共通言語である専門用語を理解し、操れるようにする。  
なぜそうなるのか？を理解する。

**運動器** 運動器疾患の概要と最新の診療について理解を深める。

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 解剖と神経疾患の病態生理
- 第2回 神経徴候
- 第3回 閉塞性脳血管障害
- 第4回 出血性脳血管障害
- 第5回 脳腫瘍・神経外傷
- 第6回 変性疾患・末梢神経疾患
- 第7回 脱髄疾患・神経筋疾患
- 第8回 運動器疾患の概要
- 第9回 症状と病態生理・診断と検査など
- 第10回 運動器疾患の外傷
- 第11回 先天性疾患・炎症性疾患・腫瘍など
- 第12回 上肢の疾患
- 第13回 下肢の疾患
- 第14回 体幹の疾患
- 第15回 病態の理解を看護につなげる
- 試験 各講師ごとに30分で実施

6. 授業形式

**脳神経** 講義形式ほか

**運動器** 講義形式

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint) を使用

8. 評価方法

**脳神経** 筆記試験

**運動器** 筆記試験

9. 教科書

**脳神経** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7)脳・神経 (医学書院)

**運動器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10)運動器 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

**運動器** 運動器疾患は首から下の広い領域にわたっていますが、極力わかりやすく解説したい  
と思います。

## 1. 授業科目 病態治療論Ⅵ (感覚器)

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

目的 疾病の成り立ちを理解する

目標 歯・口腔 歯の構造と機能を理解する。う蝕、歯周病、代表的な口腔粘膜疾患を理解する。義歯の取り扱い、口腔ケア、摂食嚥下について理解する。

耳鼻咽喉 耳、鼻、咽喉頭の構造、機能を理解し、耳鼻咽喉科疾患の病態について理解を深める。

皮膚 皮膚の構造と機能を理解し、皮膚疾患の病態について理解を深める。

眼 視覚を支える目の構造・機能と、眼疾患の病態生理を理解する。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 口腔の役割、口腔解剖、う蝕、摂食嚥下について  
 第2回 歯周病、口腔外科、高齢者の口腔衛生、口腔ケア  
 第3回 代表的な口腔粘膜疾患  
 第4回 耳の解剖、機能、疾患、看護について (I)  
 第5回 耳の疾患、看護について (II)  
 第6回 鼻の解剖、機能、疾患、看護について  
 第7回 咽頭、喉頭の解剖、機能、疾患、看護について  
 第8回 皮膚の構造と機能  
 第9回 皮膚疾患の症状と検査、治療  
 第10回 皮膚疾患の各論1  
 第11回 皮膚疾患の各論2  
 第12回 視覚(視力)とそれに関連する事項  
 第13回 視覚(視野)とそれに関連する事項  
 第14回 視覚(両眼視・色覚)とそれに関連する事項 全身疾患と関連する眼疾患  
 第15回 眼科でよくみられる疾患  
 試験 講師ごとに15分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用 パソコン、スライド

## 8. 評価方法

歯・口腔 筆記試験  
 耳鼻咽喉 筆記試験9割 レポート1割  
 皮膚 試験ないしはレポートで評価する  
 眼 筆記試験

## 9. 教科書

歯・口腔 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(15)歯・口腔 (医学書院)  
 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(14)耳鼻咽喉 (医学書院)  
 皮膚 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(12)皮膚 (医学書院)  
 眼 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13)眼 (医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

歯・口腔 口の健康と機能は、全身の健康に大きく関わります。理解を深めて、自分自身と、これから関わる方々の健康を守って下さい。

耳鼻咽喉 耳鼻咽喉科で扱う対象は、身体のなかでも小さな部分ですが、コミュニケーションに必要な器官です。短い講義時間ですが、みみ、はな、のどの機能、疾患について理解してください。

皮膚 看護師として仕事を始めると、患者様の皮膚を見る機会が多く訪れます。講義では臨床写真を中心に講義し、なるべく実際の現場で役立てればと思います。

眼 ヒトが外界から情報を得るうえで眼は重要な器官ですが、眼について学べる機会はかなり限られています。講義では多くのイラストや写真を使ってできるだけわかりやすく説明しますので、眼について学ぶこの貴重な機会をしっかりと生かすようにしてください。

1. 授業科目 病態治療論Ⅶ (リハビリテーション)

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：15

4. 学習目的・目標

目的 1. リハビリテーションの基本的な考え方について理解する。

2. リハビリテーションにおける看護師の役割を理解する。

目標 1. リハビリテーション看護を実践するための知識と技術を習得する。

2. リハビリテーションにおける基本的な評価と治療の流れを理解できる。

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 リハビリテーションの歴史と基本的な考え方について

第2回 医療チームにおける看護師の役割とADLについて

第3回 リハビリテーションにおける評価

第4回 松葉杖歩行と歩行介助について (実技) 到達度 I

第5回 障害別リハビリテーションの実際①

第6回 関節可動域訓練について (実技) 到達度 I

第7回 障害別リハビリテーションの実際②

第8回 まとめ

試験 45分で実施

6. 授業形式

講義形式

7. 視聴覚機器の活用

マイク

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 (メヂカルフレンド社)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

1. 実際に役立つ知識と技術 2. 国家試験

この2つを意識して分かりやすい講義ができるように頑張ります。



**1. 授業科目** 栄養学と代謝**2. 担当者名****3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30

- 4. 学習目的**
- ・人体を構成する成分や生命維持に必要な物質の構造・性質を学び、人が生きて活動している様子を化学の知識で理解する
  - ・健康維持のため栄養の意義と疾病に合わせた食事療法の重要性を理解
  - ・栄養管理を行う上で看護師の役割を理解

- 目標**
- ・医療を担うチームの一員である看護師が、臨床の場で活用できる生化学の知識を身につける。
  - ・栄養素の役割を理解する
  - ・栄養所要量と必要エネルギーの算出について理解する
  - ・ライフステージ別の食事管理
  - ・栄養状態のアセスメントについて理解する
  - ・疾病別食事療法について理解する

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 生命の維持と代謝
- 第2回 糖質代謝①
- 第3回 糖質代謝②
- 第4回 脂質代謝①
- 第5回 脂質代謝②
- 第6回 タンパク質・アミノ酸代謝
- 第7回 エネルギー代謝
- 第8回 栄養学の特徴と生理作用  
(栄養素の種類と働き、栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝)
- 第9回 人間栄養学と看護・栄養状態の評価  
(栄養の定義、看護と栄養、栄養アセスメントについて、NSTにおける看護師の役割)
- 第10回 ライフステージ別の食事管理  
(乳幼児、学童、青年期、成人、妊娠・授乳、老年期の特徴と栄養管理)
- 第11回 病院食の目的と種類、疾患別食事療法①  
(病院食の目的と種類、栄養管理法：経腸栄養・静脈栄養・  
消化器疾患：胃・十二指腸疾患、腸疾患、肝疾患、膵臓疾患)
- 第12回 疾患別食事療法② (代謝疾患：糖尿病→食品交換表の活用、腎疾患)
- 第13回 疾患別食事療法③ (塩分制限の食事：高血圧、心疾患、腎疾患)
- 第14回 疾患別食事療法④ (術前・術後の栄養管理、褥瘡、アレルギー)
- 第15回 まとめ  
試験 講師ごとに30分で実施

**6. 授業形式** 講義形式**7. 視聴覚機器の活用****8. 評価方法** 筆記試験(10割)**9. 教科書**

**栄養** 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(3)栄養学(医学書院)  
**代謝** ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能(2)臨床生化学(メディカ出版)

**10. 参考文献**

**栄養**・臨床病態栄養学(文光堂) ・検査値に基づいた栄養指導(チーム医療)  
 ・コメディカルのための静脈・経腸栄養手技マニュアル(南江堂)  
 ・病気がみえる(①消化器 ②循環器 ③代謝内分泌疾患)

**11. 学生へのメッセージ**

**栄養** 病院で実際に行っている栄養管理を通し、栄養管理の重要性・看護師の果たす役割を理解した上で、栄養学が身近なものとして興味を持てるようにしていきます。

**代謝** 生化学では、人体の生命活動を理解するうえで基本的かつ重要な内容です。教科書をよく読んで、まず専門用語や化学式に慣れるところから学習を始め、体内の化学反応から生命現象を理解することを目指しましょう。

## 1. 授業科目 微生物学

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護に必要な細菌学、ウイルス学、免疫学の基礎知識を習得するとともに、感染症に対する予防法および治療法を理解すること。

**目標** 細菌およびウイルスの基本構造および性質を理解し、各感染症の特徴を把握するとともに、消毒法および滅菌法を習得する。

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 細菌の性質：形態と構造、分裂と増殖
  - 第2回 感染症の現状と対策：日和見感染、新興感染症、感染症法
  - 第3回 感染症の予防：バイオハザード、滅菌と消毒、皮膚常在菌の培養実習
  - 第4回 感染症の診断と治療：細菌学的検査法、化学療法、薬剤耐性
  - 第5回 感染に対する生体防御機構：自然免疫、液性免疫
  - 第6回 感染に対する生体防御機構：細胞性免疫
  - 第7回 細菌感染症：ブドウ球菌、レンサ球菌、ナイセリア属
  - 第8回 シュードモナス属、レジオネラ属、大腸菌、赤痢菌
  - 第9回 サルモネラ属、セラチア属、ビブリオ科
  - 第10回 ヘリコバクター属、バシラス属、ジフテリア属、マイコバクテリウム属
  - 第11回 クロストリジウム属、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア
  - 第12回 ウイルス感染症：DNA ウイルス、ヘルペスウイルス他
  - 第13回 RNA ウイルス、インフルエンザウイルス他
  - 第14回 フラビウイルス、レトロウイルス他
  - 第15回 肝炎ウイルス、プリオン、真菌感染症、原虫感染症
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義形式（一部、実習を含む）

## 7. 視聴覚機器の活用

ビデオおよびパソコンを使用

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(3)微生物学（医学書院）

## 10. 参考文献

微生物学 250 ポイント(金芳堂)

国立感染症研究所資料

## 11. 学生へのメッセージ

医療分野だけでなく、日常生活においても役立つ微生物学をやさしく教えます。

## 1. 授業科目 薬理学

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 臨床において、薬物治療の占める割合は非常に大きい。臨床の場で医師、薬剤師と共に薬物治療において看護師の果たす役割は重要であるため、治療に用いられる薬剤がなぜ使用されるのか、どのような治療効果を示すのかを理解する必要がある。

**目標** 薬物の基本的な薬理作用を、疾患毎に関連づけて説明できる。

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 自己紹介 医薬品総論
- 第2回 感染症に使用する薬
- 第3回 免疫疾患・アレルギー・炎症に使用する薬
- 第4回 がんに使用する薬
- 第5回 末梢神経に作用する薬
- 第6回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬
- 第7回 循環器疾患に使用する薬
- 第8回 血液・造血器疾患に使用する薬
- 第9回 代謝/内分泌疾患に使用する薬
- 第10回 呼吸器疾患に使用する薬
- 第11回 消化器系疾患に使用する薬
- 第12回 泌尿器・生殖器疾患に使用する薬
- 第13回 感覚器疾患に使用する薬
- 第14回 周術期・救命救急時に使用する薬
- 第15回 講義のまとめ
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(2)臨床薬理学 (メディカ出版)  
適宜、参考資料も配布する。

## 10. 参考文献

看護学テキスト NiCE 薬理学 (南江堂)

## 11. 学生へのメッセージ

よりよい学習のために、薬の作用、体内動態をよく理解することが重要です。多数の医薬品名が出てきますが、しっかり予習復習してください。

**1. 授業科目** 医療概論

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 1年次 単位数：1 時間数：15

**4. 学習目的・目標**

**目的** 医学・医療についての全体的な視点・視野を獲得する。医療と看護の関係や、医療従事者として何が必要であり、求められているかを考える。

**目標** 医療全般についての大略的な知識を得ることにより、今後の個々の学習の意味を理解し、基本的な学習の姿勢を身につける。

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 第1章 生きることと死ぬこと
- 第2回 第2章 医学と医療①
- 第3回 第2章 医学と医療②
- 第4回 第3章 保健・医療・介護①
- 第5回 第3章 保健・医療・介護②
- 第6回 第3章 保健・医療・介護③
- 第7回 第4章 医療と社会
- 第8回 第5章 医療経済学と医療政策 (45分)
- 試験 45分で実施

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン (PowerPoint)

**8. 評価方法**

小レポート課題

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(1)医療概論 (医学書院)

**10. 参考文献**

講義中に適宜紹介

**11. 学生へのメッセージ**

**1. 授業科目** 公衆衛生学

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 3年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目的・目標**

**目的** 社会の変化と人間の健康生活との関連を理解できる

- 目標**
1. 公衆衛生の対象、方法、考え方を知り、看護もその役割を担うことを理解し説明できる
  2. 健康指標を知り、集団の健康状態を把握した健康支援の必要性を理解できる
  3. 生活環境の健康への影響を知り、環境の保全対策について理解できる
  4. ヘルスプロモーションを理解し説明できる
  5. 地域、学校、産業の場における健康の保持増進を目指す保健活動を理解できる

**5. 授業内容** [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 『公衆衛生』とは・第1～3次予防
- 第2回 健康の指標①
- 第3回 健康の指標②
- 第4回 感染症とその予防
- 第5回 生活習慣病
- 第6回 健康教育とヘルスプロモーション
- 第7回 食品保健と栄養
- 第8回 生活環境①
- 第9回 生活環境②
- 第10回 医療・介護の保障制度
- 第11回 地域保健活動・保健行政(含 保健所)
- 第12回 母子保健
- 第13回 学校保健
- 第14回 精神保健福祉
- 第15回 産業保健

試験 60分

**6. 授業形式**

講義形式

**7. 視聴覚機器の活用**

特に使用しない

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)

国民衛生の動向(厚生労働統計協会)

**10. 参考文献**

講義中に紹介する

**11. 学生へのメッセージ**

患者はもとより、全ての人の生活背景を理解できる看護者になってほしい。

## 1. 授業科目 社会福祉

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数： 2 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 現代社会に不可欠な仕組みの一つとしての「社会福祉」の意義や役割を理解し、自分の生活や看護の仕事との関連性を考える力を養う。

**目標** 1. 社会福祉成立の背景と現代の位置づけ  
2. 社会福祉制度の基礎理解  
3. 社会福祉と看護の仕事との関連性の理解

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 イントロダクション 「社会福祉」と「慈善」等との関係
- 第2回 社会福祉の成立の背景とは？
- 第3回 社会福祉の制度とサービス①生活保護の原理と原則
- 第4回 社会福祉の制度とサービス②生活保護の現実的課題
- 第5回 社会福祉の制度とサービス③児童福祉と虐待問題
- 第6回 社会福祉の制度とサービス④医療のなかの虐待問題
- 第7回 社会福祉の制度とサービス⑤老人福祉と少子高齢問題
- 第8回 社会福祉の制度とサービス⑥老人ホーム等の役割
- 第9回 社会福祉の制度とサービス⑦老人保健法と高齢者医療制度
- 第10回 社会福祉の制度とサービス⑧介護保険法について
- 第11回 社会福祉の制度とサービス⑨「障害」とは何か
- 第12回 社会福祉の制度とサービス⑩障害者福祉の法体系と手帳制度
- 第13回 社会福祉の制度とサービス⑪新しい障害としての発達障害
- 第14回 社会福祉の制度とサービス⑫障害者総合支援法と利用者負担
- 第15回 講義またはまとめ90分  
試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

VTRかDVD

## 8. 評価方法

筆記試験85%、毎回の提出物15%

## 9. 教科書

山縣・岡田編『よくわかる社会福祉(最新版)』(ミネルヴァ書房)

## 10. 参考文献

社会福祉小六法(ミネルヴァ書房)

## 11. 学生へのメッセージ

授業では色々な事を想像しながら受講し参加意欲を持って下さい。  
授業内で様々な疑問を持つ事を期待します。

## 1. 授業科目 関係法規

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：2 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護職員にとって最も重要な法律である保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律について、医療に関する法律である医事法、国民の健康の保持・増進を目的とする保健衛生法、薬務法、社会保険法、福祉法、そして労働条件と職場の安全衛生について定めた労働基準法・労働安全衛生法等の基礎知識を習得する。

**目標**

1. 看護がどのような法律に準拠して行われているのか述べることができる。
2. 看護を取り巻く多職種の法律について説明できる。
3. 国民の健康の保持・増進を目的とする法律を述べることができる。
4. 社会福祉の基盤となる法律を述べることができる。
5. 労働者の健康を守る法律を説明できる。
6. 環境の保全と公害の防止に関する法律を挙げることができる。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 ガイダンス・法とは
  - 第2回 看護法とは
  - 第3回 医事法とは
  - 第4回 看護法・医事法の小テスト・解説 保健衛生法(共通保健法)
  - 第5回 保健衛生法(分野別保健法・感染に関する法律)
  - 第6回 保健衛生法(食品に関する法等) 保健衛生法の小テスト
  - 第7回 薬務法(薬事一般に関する法律等)
  - 第8回 社会保険法(費用保障)
  - 第9回 社会保険法(年金等) 薬務法・社会保険法の小テスト・解説
  - 第10回 福祉法(福祉の基盤・児童分野)
  - 第11回 福祉法(高齢分野・障害分野)
  - 第12回 福祉法の小テスト・解説 労働法と社会基盤整備
  - 第13回 環境法とは
  - 第14回 最新の人口静態、動態・その他の統計
  - 第15回 最新の人口静態、動態・その他の統計・環境法の小テスト
- 試験

## 6. 授業形式

講義形式

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度(4)看護関係法令(医学書院)

## 10. 参考文献

必要時提示します。

## 11. 学生へのメッセージ

看護師国家試験につながる科目です。ただ単に暗記するだけでなくしっかりと理解をしてほしい。

## 専門分野 66(2100)

## 本校 66(2100)

## 専門分野構築の考え方

**基礎看護学**は、看護の歴史を知り、現代の看護の実際を知り、未来の看護について考える基盤となる。基礎・専門基礎分野で学んだ知識をもとに、地域看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。そして、看護を実践するための基礎的な知識・技術について学ぶこととした。日常生活援助および診療の補助技術について、看護の対象がその人らしい生活を営めるように支援できる能力を養うことを目的とした。また、看護実践能力を強化するため演習を多く取り入れた。

**成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護論**は基礎、専門基礎分野ならびに基礎看護学で学んだ知識をもとに、医療をとりまく環境、看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。地域で生活する対象が、医療施設、福祉施設などで療養し、再び地域での生活に向けて回復あるいは安寧な死を迎える過程を学ぶ。

そして看護を実践するための基礎的な知識・技術について学び、対象がその人らしい生活を営めるよう支援できる能力を養うことを目的とした。

解剖生理学から病態治療論、続けて看護学と順を追って学べるように配置した。

「成人看護学」では経過別看護、手術療法や透析療法をはじめとする治療処置場面での看護を学ぶ。

「老年看護学」では生活機能の観点からアセスメントし看護を展開すること、「精神看護学」では精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を展開できるような内容を含み、実習前に看護展開の演習を行う。

**地域・在宅看護論**は地域・在宅で生活するすべての人々に対する看護のための学習内容を幅広く位置づけた。

**発達段階と健康状態別看護**は、健康状態別看護の実践力をつける目的として設定した。教育内容の重複や教育内容の共通部分を取り出し、「薬物療法と看護」「各発達段階における手術と看護」「エンド・オブ・ライフ・ケア」「ファミリーケア」「ヘルスプロモーション」と学生の「おや？」という気づきを大切に「問題解決思考の活用と実践Ⅰ」を設定した。

**看護の統合と実践**は、基礎、専門基礎分野、専門分野で学んだ知識をもとに、医療をとりまく環境、看護の対象となるあらゆる健康状態、あらゆる発達段階にある人々のそれぞれの特性を理解する。そして看護を実践するための基礎的な知識・技術について学び、対象がその人らしい生活を営めるよう支援できる能力を養うことを目的とした。看護実践の場面において必要な「医療安全」「問題解決思考の実践Ⅱ」「国際看護と災害看護」を科目とした。

**臨地実習**は、初学年から看護の対象者は地域で生活をする人であることを理解できるように設定した。1つは基礎看護学実習の「看護の場を知る実習」、もう1つは地域・在宅看護論実習の「地域で生活する人と看護実習」である。地域、医療施設、福祉施設等人々の暮らしには多様性があることを学び、看護につなげていく。さまざまな生活の場、看護の場を知ることで看護について興味関心を持つ。

また、基礎看護学実習では、対象がよりよく生活できるようにするため日常生活援助を見学、実施し習得する。成人・老年看護学実習の「さまざまな看護を知る実習」では、手術療法や透析療法をはじめとする治療処置場面での看護の役割見学を通して学ぶ。

成人・老年看護学実習では対象の発達段階、発達課題ならびに健康段階に応じた看護を実践する。特に高齢者の看護では認知機能、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する。精神看護学では精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を展開できるような内容を含み、実習前に看護展開の演習を行う。**地域・在宅看護論**は地域・在宅で生活するすべての人々に対する看護のための学習内容を幅広く位置づけた。各領域の臨地実習において、医療チームの一員としての役割を学ぶ、保健医療福祉との連携、協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とする。



| 教育内容                | 授業科目                          | 単位 | 時間 |
|---------------------|-------------------------------|----|----|
| 基礎看護学<br>16(465)    | 基礎看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 看護管理・看護理論                     | 1  | 30 |
|                     | 看護研究                          | 1  | 30 |
|                     | 基本援助技術Ⅰ                       | 1  | 30 |
|                     | 基本援助技術Ⅱ                       | 1  | 30 |
|                     | 基本援助技術Ⅲ                       | 1  | 30 |
|                     | 生活援助技術Ⅰ                       | 1  | 30 |
|                     | 生活援助技術Ⅱ                       | 1  | 30 |
|                     | フィジカルアセスメント                   | 1  | 30 |
|                     | 看護過程                          | 1  | 30 |
|                     | 臨床看護学総論                       | 1  | 15 |
|                     | 看護の場を知る実習                     | 1  | 30 |
|                     | 基礎看護学実習Ⅰ                      | 2  | 60 |
| 基礎看護学実習Ⅱ            | 2                             | 60 |    |
| 成人・老年看護学<br>13(440) | 成人看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 成人看護学援助論Ⅰ(呼吸器・循環器)            | 1  | 30 |
|                     | 成人看護学援助論Ⅱ(腎泌尿器・内分泌代謝)         | 1  | 30 |
|                     | 成人看護学援助論Ⅲ(脳神経・運動器)            | 1  | 30 |
|                     | 成人看護学援助論Ⅳ(消化器・血液・造血器・免疫アレルギー) | 1  | 30 |
|                     | 老年看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 老年看護学援助論Ⅰ                     | 1  | 30 |
|                     | 老年看護学援助論Ⅱ                     | 1  | 30 |
|                     | さまざまな看護を知る実習                  | 1  | 40 |
|                     | 成人・老年看護学実習Ⅰ                   | 2  | 80 |
| 成人・老年看護学実習Ⅱ         | 2                             | 80 |    |
| 小児看護学<br>5(170)     | 小児看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 小児看護学援助論Ⅰ                     | 1  | 30 |
|                     | 小児看護学援助論Ⅱ                     | 1  | 30 |
|                     | 小児看護学実習                       | 2  | 80 |
| 母性看護学<br>5(170)     | 母性看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 母性看護学援助論Ⅰ                     | 1  | 30 |
|                     | 母性看護学援助論Ⅱ                     | 1  | 30 |
|                     | 母性看護学実習                       | 2  | 80 |
| 精神看護学<br>5(170)     | 精神看護学概論                       | 1  | 30 |
|                     | 精神看護学援助論Ⅰ                     | 1  | 30 |
|                     | 精神看護学援助論Ⅱ                     | 1  | 30 |
|                     | 精神看護学実習                       | 2  | 80 |

|                        |                |   |    |
|------------------------|----------------|---|----|
| 地域・在宅看護論<br>10(320)    | 地域・在宅看護概論      | 1 | 30 |
|                        | 地域・在宅看護援助論Ⅰ    | 1 | 30 |
|                        | 地域・在宅看護援助論Ⅱ    | 1 | 30 |
|                        | 地域における暮らしと環境   | 1 | 30 |
|                        | 地域で生活する人と看護    | 1 | 30 |
|                        | 生活する人を知る実習     | 1 | 30 |
|                        | 地域で生活する人と看護実習  | 2 | 60 |
|                        | 地域・在宅看護論実習     | 2 | 80 |
| 発達段階と健康状態別看護<br>6(180) | 問題解決思考の活用と実践Ⅰ  | 1 | 30 |
|                        | 薬物療法と看護        | 1 | 30 |
|                        | 各発達段階における手術と看護 | 1 | 30 |
|                        | エンド・オブ・ライフ・ケア  | 1 | 30 |
|                        | ファミリーケア        | 1 | 30 |
|                        | ヘルスプロモーション     | 1 | 30 |
| 看護の統合と実践<br>6(185)     | 医療安全           | 1 | 30 |
|                        | 問題解決思考の活用と実践Ⅱ  | 2 | 45 |
|                        | 国際看護と災害看護      | 1 | 30 |
|                        | 看護の統合実習        | 2 | 80 |

## 基礎看護学

|           |  |
|-----------|--|
| <b>目的</b> | 対象である人間を統合的に理解し看護を実践するために基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。  |
| <b>目標</b> | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 看護の本質、理論を学び、社会の変化に対応できる思考の育成、看護の基本概念をとらえる。</li><li>2. 社会情勢が変化してく中で、看護の位置づけと専門性について学ぶ。</li><li>3. 看護の対象である人間を人権意識に裏打ちされた感性で、総合的に理解する。</li><li>4. 看護実践の基礎となる基礎看護技術を理論的に理解し身につける。</li><li>5. 障害、疾患を持つ人に対して基本的援助を学ぶ。</li><li>6. 関連職種間の調整に必要なマネジメントの基本を理解する。</li></ol> |

## 1. 授業科目 基礎看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目標** 看護とは何か、看護師とはどのような職業なのかを考えることができる。  
看護における倫理について考えることができる。  
看護の役割、機能について考えることができる。

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 看護を学ぶにあたって
  - 第2回 看護とは：看護の本質
  - 第3回 看護の対象の理解：人間の「こころ」と「からだ」を知るこの意味
  - 第4回 近代看護の祖 ナイチンゲール：ナイチンゲールの生涯 看護の定義
  - 第5回 看護職の養成制度：看護基礎教育と養成制度 養成制度の課題
  - 第6回 国民の健康状態と生活：健康のとらえ方 国民の健康状態
  - 第7回 看護の提供者：職業としての看護
  - 第8回 看護における倫理：現代社会と倫理
  - 第9回 看護実践における倫理問題：取り組むためのしくみ
  - 第10回 事例検討：各自で調べ、グループで検討
  - 第11回 看護の提供の仕組み(1) サービスとしての看護
  - 第12回 看護の提供の仕組み(2) 看護サービスの場 看護をめぐる制度と政策
  - 第13回 医療安全と医療の質保証：医療事故の増加 医療事故防止対策
  - 第14回 広がる看護活動の場：国際化と看護 災害時における看護
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD

### 8. 評価方法

筆記試験 70点、課題レポート 30点

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1)看護学概論(医学書院)  
看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)  
看護覚え書(現代社)  
よくわかる看護職の倫理綱領(照林社)

### 10. 参考文献

授業にて紹介します

### 11. 学生へのメッセージ

本校で最初に学ぶ専門科目です。「看護とは何なのか」「看護師とはどのような職業なのか」を一緒に考え、看護学に対して興味関心を高めていきましょう。皆さんが自らの看護観を築ききっかけになってほしいと願っています。

1. 授業科目 **看護管理・看護理論**

2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目的・目標

- 目標**
1. 代表的な看護理論家とその業績について理解する
  2. 看護実践における看護理論の活用について理解する。
  3. 看護管理の基本を学び、専門職としての責任ある行動について理解する。
  4. 看護管理の基本を学び、組織の中で責任ある行動について理解する。
  5. チーム医療及び他職種との協働のなかでメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。

5. 授業内容 [**\*1回は1コマ(90分)の授業です**]

- 第1回 看護理論とは 看護理論の歴史
- 第2回 看護の諸理論の発展過程
- 第3回 看護の重要性 理論の活用
- 第4回 看護理論 GW (1)ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイ他
- 第5回 看護理論 GW (2)ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ロイ他
- 第6回 看護理論 GW (3)プレゼンテーション準備
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 プレゼンテーション まとめ
- 第9回 看護とマネジメント(看護管理とは・看護の役割 他)  
看護ケアのマネジメント(患者の権利・安全管理 他)
- 第10回 看護ケアのマネジメント(チーム医療・看護業務の実践 他)  
看護職のキャリアマネジメント
- 第11回 看護サービスのマネジメント(1)
- 第12回 看護サービスのマネジメント(2)
- 第13回 マネジメントに必要な知識(1)
- 第14回 マネジメントに必要な知識(2)
- 第15回 看護を取り巻く諸制度・社会人になるということ  
試験 講師ごとに30分で実施

6. 授業形式

講義 グループワーク レポート

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

8. 評価方法

**看護管理** 筆記試験  
**看護理論** 筆記試験 40点 レポート 10点

9. 教科書

**看護管理** 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1)看護管理(医学書院)  
**看護理論** 城ヶ端初子：誰でもわかる看護理論(サイオ出版)  
看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) 看護覚え書(現代社)

10. 参考文献

看護学概論 看護関係法令 国民衛生の動向 看護職の倫理綱領など(授業中に随時紹介)

11. 学生へのメッセージ

**看護管理** 看護管理に必要な能力はみなさんが新人看護師になってからすぐに必要な能力が多いです。質の高い看護実践に向けて一緒に学びましょう。  
**看護理論** 看護の概念と理論の意味と重要性を知り、理論が看護実践に果たす役割について学びましょう。

## 1. 授業科目 看護研究

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** 看護領域における研究の概要を学び、看護研究の基礎となる知識、技術、態度を養う。

- 目標**
1. 研究の概要について理解できる
  2. 文献とその種類について理解し、文献検索することによってリサーチクエスチョンを設定できる。
  3. 研究のプロセスを理解することができる。
  4. 研究デザインの概要について理解できる。
  5. 研究計画書が作成できる。

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 看護研究とは
- 第2回 看護研究における倫理的配慮
- 第3回 看護研究のはじめ方 リサーチクエスチョンを立てる
- 第4回 研究デザインの概要、データの収集、分析
- 第5回 量的研究、質的研究
- 第6回 データ収集、分析
- 第7回 文献検索 クリテイクとは
- 第8回 文献検索の方法(演習)
- 第9回 文献検索の方法(演習)
- 第10回 文献クリテイク(演習)
- 第11回 研究を伝える 学会発表、論文作成
- 第12回 研究計画書の作成(演習)
- 第13回 研究計画書の作成(演習)
- 第14回 研究計画書の発表
- 第15回 研究計画書の発表、まとめ

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

研究計画書(レポート課題) 4割、筆記試験 6割

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院)

## 10. 参考文献

授業時、適宜紹介する。

## 11. 学生へのメッセージ

みなさんが将来、現場で疑問に思うことを解決していく方法の一つに看護研究があります。この授業を通して看護研究に興味を持ってもらえると嬉しいです。

## 1. 授業科目 基本援助技術 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 看護技術の基盤が理解できる
2. 健康を障害された人の療養環境を整えることができる。また、療養環境を整える技術を習得できる。
3. 苦痛の緩和、安楽を確保するための技術を習得できる。
4. 活動を制限された人への援助技術を習得できる。
5. 基本的な感染防止の技術を習得できる。

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

|         |  |      |
|---------|--|------|
| 第1回     | 看護技術の基本原則  |      |
| 第2回     | 環境とは (ベッド周囲の環境を考える)<br>療養生活 (物理的環境・対人的環境・管理、教育的環境) |      |
| 第3回     | 活動とは ボディメカニクスとは                                    |      |
| 第4回     | 環境調整技術①<br>演習：シーツのたたみ方・広げ方 ベッドメイキング (研修1コマ使用)      |      |
| 第5回     | 安楽な体位の調整 体位保持 (ポジショニング)・褥瘡防止ケア                     | 到達度Ⅱ |
| 第6・7回   | 演習：ボディメカニクスを使った体位変換                                | 到達度Ⅰ |
| 第8・9回   | 演習：リネン交換 (臥床患者のリネン交換)                              | 到達度Ⅰ |
| 第10回    | 環境調整技術② 演習：環境整備                                    | 到達度Ⅰ |
| 第11・12回 | 講義と演習：移乗・移送 (車椅子・ストレッチャー)                          | 到達度Ⅰ |
| 第13回    | 感染防止の基礎知識  |      |
| 第14回    | 演習：スタンダードプリコーション・防護用具の選択・着脱、取扱い<br>感染物の分別・無菌操作     | 到達度Ⅰ |
| 第15回    | 睡眠と休息の基礎知識   |      |
| 試験      | 60分で実施 (ベッドメイキングは技術確認項目)                           |      |

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義・学内演習、課題学習

### 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン (PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2)基礎看護技術Ⅰ (医学書院)

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

### 10. 参考文献

ナイチンゲール看護覚え書 (現代社)

### 11. 学生へのメッセージ

看護学生生活初めての看護技術となります。

患者さんの安全と安楽を考えながら技術を学んでください。

## 1. 授業科目 基本援助技術Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 診察援助を必要とする患者の心理を理解し、検査や治療が正確に、適切に実施できる知識、技術を習得する
2. 与薬を安全かつ正確にできる知識、技術を習得する

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 与薬の基礎知識、検体の採取と取扱い(血液、尿、便、痰)

第2回 創傷管理の基本知識

第3回 演習：創洗浄・保護・包帯法

到達度Ⅱ

第4回 採血を実施ための基礎知識

第5回 演習：採血の実施

到達度Ⅱ

第6回 演習： 〃

第7回 注射法を実施するための知識

第8回 演習：注射の準備(アンプルカット・注射器の取扱い)

第9回 演習：皮下注射・筋肉注射の実施

到達度Ⅱ

第10回 静脈内注射の基礎知識

第11回 演習：点滴静脈内注射の実施・管理

到達度Ⅱ

第12回 演習：輸液ポンプの実施・管理

到達度Ⅱ

第13回 演習：薬剤のばく露予防策の実施

到達度Ⅱ

第14回 輸血の基礎知識

第15回 演習：輸血の管理

到達度Ⅱ

試験 60分で実施

※演習は必修です。必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(パワーポイント)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

系統看護学講座 別巻 臨床検査(医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

看護技術は確かな技術をもって安全に実施しなければなりません。看護師としての責任を意識した態度で臨んでください。



**1. 授業科目 基本援助技術Ⅲ****2. 担当者名****3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30**4. 学習目的・目標**

**目的** 治療、処置を受ける患者の看護の実際を学び、それぞれの器機の取り扱いの実際を学ぶ  
救命救急処置の実際を学ぶ

**目標** 治療、処置を受ける患者の看護の実際がわかる  
医療機器の取り扱いの実際がわかる  
患者の心理を理解し、検査や治療が正確に、適切に実施できる知識、技術を習得することができる  
一次救命の適切な知識と実施方法がわかる

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

|         |   |        |
|---------|---|--------|
| 第1回     | 医療機器の概要   |        |
| 第2回     | 医療機器の実際(検査のための医療機器)   |        |
| 第3回     | 医療機器の実際(医療の補助を行う医療機器)   | 到達度Ⅰ   |
| 第4・5回   | 演習：酸素吸入療法 酸素ポンベの取り扱い ネブライザーを用いた気道内加湿<br>口腔内吸引 鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレナージ | 到達度Ⅰ・Ⅱ |
| 第6回     | 生体検査モニタリングの基礎知識   |        |
| 第7回     | 診察・検査・処置における技術  |        |
| 第8回     | 演習：心電図(12誘導)  | 到達度Ⅱ   |
| 第9回     | 演習：検査を受ける患者の看護(介助)  | 到達度Ⅰ   |
| 第11回    | 講義・演習：経鼻経管チューブの挿入   | 到達度Ⅰ・Ⅱ |
| 第12回    | 演習：経管・経腸栄養の注入   | 到達度Ⅰ・Ⅱ |
| 第13回    | 講義・演習 止血法   | 到達度Ⅰ   |
| 第14・15回 | 一時救急処置技術(BLS) 緊急時の応援要請(研修2コマ)                                     | 到達度Ⅰ   |

※演習は必ず出席すること

**6. 授業形式**

講義 演習 グループワーク

**7. 視聴覚機器の活用**

DVD パソコン

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

**10. 参考文献**

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論(医学書院)

**11. 学生へのメッセージ**

様々な看護技術を実際に体験していきます。方法のみでなく患者さんの気持ちを考えながら実施していきましょう。

## 1. 授業科目 生活援助技術 I

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

目標 人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解し援助技術を習得する

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 清潔援助の意義、基礎知識
- 第2回 自分の生活における清潔について振り返ってみよう  
清潔援助の方法・選択の視点
- 第3回 演習：寝衣交換(研修1コマ使用) 到達度 I
- 第4回 清拭基礎知識 衣生活の基礎知識
- 第5回 演習：こちよ湯の温度、こちよ拭き方(研修1コマ使用)  
タオルの取り扱い(ウオッシュクロス、フェイスタオル、バスタオル)
- 第6回 全身清拭援助計画立案
- 第7回 演習：全身清拭(研修2コマ使用) 到達度 I
- 第8回 演習：全身清拭実施・計画修正
- 第9回 手浴・足浴基礎知識
- 第10回 演習：手浴足浴(研修1コマ使用) 到達度 I
- 第11回 洗髪基礎知識 入浴が生体に及ぼす影響
- 第12回 演習：洗髪時の体位・シャワーの当て方(研修1コマ使用) 到達度 I
- 第13回 演習：洗髪時の体位・シャワーの当て方
- 第14回 陰部洗浄の基礎知識
- 第15回 演習：陰部洗浄(研修1コマ使用) 到達度 I
- 試験 60分で実施 (全身清拭は実習前の技術確認項目)

※演習は必ず出席すること

## 6. 授業形式

講義、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

## 10. 参考文献

看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)

## 11. 学生へのメッセージ

皆さんが当たり前に行っていることですが、他者を実施するのは意外に難しいです。患者体験からも多くの学びがあり、それを活用しながら看護師として心地良い援助を提供するには、どのような配慮や技術が必要なのかを一緒に考えていきましょう。

1. 授業科目 生活援助技術Ⅱ

2. 担当者名

3. 配当学年等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

目標 人間にとっての栄養と排泄の意義を理解し援助技術を習得する

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 食事の基礎知識

第2回 食に関するアセスメント 1

第3回 食に関するアセスメント 2

第4回 食に関する援助について

第5回 演習：食事介助

到達度Ⅰ

第6回 演習：口腔ケア

到達度Ⅰ

第7回 排泄に関する基礎知識・アセスメント

第8回 自然排尿・自然排便の援助

第9回 演習：便器・尿器の当て方

到達度Ⅰ

第10回 排泄障害時の援助について[導尿・バルーンカテーテル]

第11回 演習：導尿

到達度Ⅰ

第12回 演習：導尿

第13回 排泄障害時の援助について[浣腸・摘便]

第14回 演習：浣腸・摘便

到達度Ⅰ

第15回 演習：浣腸・摘便

試験 60分で実施

※演習は必ず出席すること

6. 授業形式

講義、演習

7. 視聴覚機器の活用

パソコン

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ(医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)

10. 参考文献

看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)

看護技術 講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術篇(サイオ出版)

11. 学生へのメッセージ

人間にとっての食と排泄の大切さ、エビデンスに基づいた援助技術の重要性を一緒に学んでいきたいと思ひます。十分な事前・事後学習をして臨んでください。



## 1. 授業科目 看護過程

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

**目標** 看護過程の必要性を理解できる。

看護過程の構成要素や思考のプロセスが理解できる

健康上の課題を解決するための計画が立案できる

村上智子さんの事例を通して以下の学習ができる

基礎情報を収集し常在条件を把握することができる

事例の情報を S、O で記載することができる

基本的看護の構成要素ごとに解釈分析できる

基本的看護の構成要素ごとに、充足、未充足を判断できる

基本的看護の構成要素ごとに看護上の問題を抽出することができる

看護計画を立案できる

実施場面のビデオを見て期待される結果に到達できたか評価できる

看護計画を修正できる

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 看護過程の定義 看護過程の構成要素

第2回 基盤となる考え方(クリティカルシンキング、リフレクション) 事実?意見?

第3回 情報収集(ヘンダーソンの3つの視点)

第4回 DVD視聴 村上さんの様子を S と O で記載してみる

第5回 常在条件について

第6回 病理的状态について

第7回 村上智子さんの栄養について考えよう

第8回 村上智子さんの排泄について考えよう

第9回 村上智子さんの活動について考えよう

第10回 基本的看護の構成要素について 充足・未充足

第11回 関連図について

第12回 看護上の問題を明確にする

第13回 看護計画を記載しよう

第14回 看護計画を記載しよう

第15回 実施・評価について

試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

## 8. 評価方法

課題3割、筆記試験7割

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I (医学書院)

看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 (ニューヴェルヒロカワ)

ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト (ニューヴェルヒロカワ)

## 10. 参考文献

看護過程に沿った対症看護 (Gakken)

看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (メディックメディア)

## 11. 学生へのメッセージ

書き方ではなく、考え方を学ぼう。村上さんの健康上の問題の解決に向けてできることを考えよう。

## 1. 授業科目 臨床看護学総論

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：15

## 4. 学習目標

1. 健康へのニーズをもつ生活者と家族について理解できる
2. 健康生活と看護について理解できる
3. ライフサイクルと発達課題を踏まえた看護が理解できる
4. 経過に基づく患者の看護について理解できる
5. 主要症状を示す患者の看護を理解できる
6. 治療・処置を受けている患者の看護を理解できる

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 ライフサイクルからとらえた患者と家族の健康上のニーズと看護
- 第2回 家族の機能からとらえた患者と家族の健康上のニーズと看護
- 第3回 健康状態の経過に基づく看護① 急性期・回復期における看護
- 第4回 健康状態の経過に基づく看護② 慢性期・終末期における看護
- 第5回 主要症状を示す患者の看護① 呼吸・循環に関連する症状を示す患者への看護
- 第6回 主要症状を示す患者の看護② コーピング・安楽に関連する症状を示す患者への看護
- 第7回 治療・処置を受ける患者の看護① 輸液・安静療法を受ける患者への看護
- 第8回 (45分) 治療・処置を受ける患者の看護②

講義・演習 化学療法・放射線療法を受ける患者への看護(放射線被ばく法対策)

試験 45分で実施

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パワーポイント

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4)臨床看護総論(医学書院)

## 10. 参考文献

授業内で紹介します

## 11. 学生へのメッセージ

看護の対象をユニットでとらえ、多様な健康上のニーズを持つ発達段階の人々に、個性のある看護の実践を、履修した看護技術・知識をベースに、柔軟な思考をもって看護実践につなげる事が出来るのか、授業を通して理解を深めて頂きたいと思います。

## 基礎看護学実習

### 看護の場を知る実習 1(30)

|    |  |
|----|--|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生として、適切かつ責任ある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる</li> <li>看護活動の場にはどのような場所があり、その活動の場の特徴と看護師の役割を知る</li> </ul> |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各施設の看護師に追従し、各施設の特徴や看護師の役割を見学して学ぶ</li> </ul>   |

### 基礎看護学実習 I 2(60)

|    |  |
|----|--|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における看護活動の場の実際を理解することができる</li> <li>2. 患者を取り巻く環境および療養生活が理解することができる             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 物理的な環境について、理解することができる</li> <li>2) 人的環境について、理解することができる</li> <li>3) 環境における医療安全と感染管理について、知ることができる</li> </ol> </li> <li>3. 患者の安全・安楽な療養環境について、考えることができる</li> <li>4. バイタルサイン測定を実施し、異常の有無について、考えることができる</li> <li>5. 見学・実施したことを客観的に振り返ることができる</li> <li>6. 患者－看護師関係を築くための態度について、考えることができる</li> </ol> |
| 内容 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、病院や援助の見学を通して、看護活動の実際の間を理解する</li> <li>2. 日常生活援助を見学し、患者の生活環境及び対象の療養生活を知る</li> <li>3. 既習の看護技術（環境整備・バイタルサイン測定など）は看護師の指導のもとに実施する</li> </ol>   |

### 基礎看護学実習 II 2(60)

|    |   |
|----|---|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>患者理解を深め、必要な援助とは何かを考える。</li> <li>看護の視点で観察することができる。</li> <li>実施した結果を患者にあったものに修正する方法がわかる。</li> </ul>  |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>患者を受持ち、意図的な情報収集を行う</li> <li>得た情報から、その人に必要な援助を考える</li> <li>必要な援助に対し目標を考える</li> <li>援助計画を立案し、看護援助を実施する</li> <li>実施した結果が目標に適したのか評価し、計画の修正をする</li> </ul> |

# 成人・老年看護学

|    |  |
|----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"><li>・成人期にある対象を総合的に理解し、その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ。</li><li>・老年期にある対象の特徴を理解し、健康段階に応じた看護の基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。</li></ul>  |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴について学ぶ。</li><li>2. 成人期の生活と健康に関する基本的な知識を学ぶ。</li><li>3. 成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本の基本的な考え方や方法を学ぶ。</li><li>4. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化の特徴が理解できる。</li><li>5. 老年期にある対象の健康問題と医療・保健・福祉の動向と現状が理解できる。</li><li>6. 老年期の看護の特徴と役割が理解できる。</li><li>7. 老年期に起こりやすい日常生活上の障害が理解できる。</li><li>8. 老年期にある対象とその家族への援助方法を理解し、実践することができる。</li><li>9. 対象の生活史・価値観を尊重した態度を養うことができる。</li><li>10. 対象との関わりを通して自己の老年観を養う。</li></ol> |



1. 授業科目 **成人看護学概論**

2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標**
1. 成人期にある対象の特徴について、理解することができる。
  2. 生活習慣が健康に及ぼす影響について、理解することができる。
  3. 健康な生活を送る対象に関する保健活動について、理解することができる。
  4. 健康障害を持つ対象やその家族に対する基本的な看護について、理解することができる。

5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 成人看護学の対象とは
  - 第2回 発達段階と発達課題
  - 第3回 青年期、壮・中年期の特徴
  - 第4回 生活と健康問題・生活と健康を守り、育むシステム
  - 第5回 人口静態・動態と成人の疾病
  - 第6回 生活と健康を守り、育むシステム
  - 第7回 危機理論およびストレス、ストレスコーピング理論と看護
  - 第8回 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護
  - 第9回 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護
  - 第10回 障害の受容と看護・障害を持ちながらの生活とリハビリテーション
  - 第11回 自己効力感と看護・退院を支援する看護
  - 第12回 人生の最期のときを支える看護
  - 第13回 DVD鑑賞
  - 第14回 DVD鑑賞
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

必要時は指示する

8. 評価方法

筆記試験および提出物（レポート等）により評価する

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 成人看護学(1)成人看護学総論（医学書院）  
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

10. 参考文献

講義中に提示する

11. 学生へのメッセージ

人間の成長・発達において最も長い期間であり、さまざまな意味で対象となる人が最も多い『成人期』を学習します。「成人って何?」「大人って何?」「成人・大人を看護するってどういうこと?」を、皆さんと一緒に学びたいと思います。

1. 授業科目 成人看護学援助論 I

2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

1. 呼吸器疾患患者の特徴と看護について、理解することができる。
2. 肺切除術、化学療法、放射線療法を受ける患者の看護について、理解することができる。
3. 呼吸器特有の治療・処置を受ける患者の看護について、理解することができる。
4. 循環器疾患患者の特徴と看護について、理解することができる。
5. 課題やグループワークを通じて学びを深めることができる。

5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 呼吸器の看護を学ぶにあたって
  - 第2回 症状に対する看護
  - 第3回 肺炎、COPD 患者の看護
  - 第4回 肺癌患者の看護
  - 第5回 胸腔ドレナージを受ける患者の看護
  - 第6回 気管切開を受ける患者・気管挿管を受ける患者の看護
  - 第7回 人工呼吸器を装着している患者の看護
  - 第8回 循環器のおもな症状・観察
  - 第9回 心不全患者の看護
  - 第10回 虚血性心疾患患者の看護
  - 第11回 心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の看護
  - 第12回 心臓リハビリテーションと看護、動脈系疾患患者の看護
  - 第13回 不整脈患者の看護
  - 第14回 虚血性心疾患患者への退院指導(パンフレット作成)
  - 第15回 まとめ
- 試験 呼吸器・循環器 各30分で実施

6. 授業形式

- 呼吸器：講義
- 循環器：講義、グループワーク

7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint 他)

8. 評価方法

- 呼吸器：筆記試験
- 循環器：筆記試験9割、課題1割

9. 教科書

- 呼吸器：系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)呼吸器 (医学書院)
- 循環器：系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3)循環器 (医学書院)  
病気がみえる vol.2 循環器 (メディックメディア)

10. 参考文献

病気がみえる vol.4 呼吸器 (メディックメディア)

11. 学生へのメッセージ

呼吸器・循環器の解剖生理を復習しておいてください。また、講義の進度は早いので体調を整えて講義に臨んでください。学生の皆さんに会えることを楽しみにしています。

## 1. 授業科目 成人看護学援助論Ⅱ

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的 内分泌** 内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴を理解し疾患が生活に与える影響を踏まえ、その時期に必要な看護を行うことができる。

**腎泌尿器** 腎・泌尿器疾患の特徴を踏まえながら、身体的、社会的な情報を収集し、各個人に適した看護を行うことができる。

- 目標**
1. 内分泌疾患の病態や特徴を理解し、疾患に応じた看護を理解することができる
  2. 糖尿病とともに生きる対象の心理、社会的問題を理解することができる
  3. 糖尿病の病態や合併症の状態に合わせた看護が理解できる
  4. 糖尿病患者が身体の状態を理解し、対処するための患者教育、支援が理解できる  
(インスリン注射、血糖測定を含む)
  5. 腎臓の重要性及び特徴を理解し、疾患に応じた看護が出来る。
  6. 透析・腎移植に対する知識を高める。

## 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 下垂体疾患患者の看護  
 第2回 甲状腺疾患患者の看護  
 第3回 副腎疾患患者の看護  
 第4回 糖尿病の病態、診断、検査、メタボリックシンドローム、高尿酸血症について  
 第5回 食事療法、運動療法、薬物療法、糖尿病合併症  
 第6回 疾患の特徴 身体・心理・社会的特徴と糖尿病看護の実際  
 合併症を持つ患者の看護、周術期・災害時の看護、糖尿病教室  
 第7回 インスリン療法の援助、血糖自己測定の演習 到達度Ⅱ  
 第8回 インスリン療法の援助、血糖自己測定の演習  
 第9回 尿路感染症疾患患者の看護  
 第10回 前立腺疾患患者の看護  
 第11回 尿路・膀胱疾患患者の看護  
 第12回 糸球体疾患患者の看護(ステロイド・高圧剤を服用する看護含む)  
 第13回 急性・慢性腎不全患者の看護  
 第14回 血液透析・腹膜透析患者の看護  
 第15回 腎移植を受ける患者の看護  
 試験 60分で実施

※演習は必ず出席すること

## 6. 授業形式

講義・演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

**内分泌** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝 (医学書院)**腎泌尿器** 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器 (医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**内分泌** 慢性疾患としての糖尿病看護に関心を持ってもらえるような内容にしたいと思います。教科書を一読しておいてください。また、各器官から分泌されるホルモンについてどの部位から分泌されるのか教科書等で確認してください。

**腎泌尿器** 腎・泌尿器の構造と機能の復習、及び授業内容に沿って一読しておいてください。

## 1. 授業科目 成人看護学援助論Ⅲ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

- 目的 脳神経** 脳神経系疾患領域における対象への看護実践の為の知識と技術を学ぶ
- 運動器** 症状理解や質の高いケア提供、自立支援、多職種連携について学ぶ
- 目標 脳神経** 脳神経系疾患患者の理解と看護の目的・役割が理解できる
- 脳神経系疾患の症状や障害を持つ患者及び治療を受ける患者に対する看護が理解できる
- 運動器** 運動器疾患患者の特徴と看護について理解することができる

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 医療の動向、患者の特徴、看護の役割、看護の特徴と留意点
  - 第2回 症状・障害を持つ患者の看護-1
  - 第3回 症状・障害を持つ患者の看護-2
  - 第4回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-1
  - 第5回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-2
  - 第6回 内科的治療・処置を受ける患者の看護-3
  - 第7回 外科的治療・処置を受ける患者の看護-1
  - 第8回 外科的治療・処置を受ける患者の看護-2
  - 第9回 運動器疾患をもつ患者の特徴、看護の役割
  - 第10回 ギプス固定を受ける患者の看護
  - 第11回 牽引療法を受ける患者の看護
  - 第12回 大腿骨頸部骨折患者の看護
  - 第13回 脊髄損傷患者の看護
  - 第14回 関節リウマチ患者の看護
  - 第15回 運動器疾患に特有な治療・検査と看護
- 試験 講師ごとに30分で実施

### 6. 授業形式

講義形式

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

- 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7)脳・神経 (医学書院)
- 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10)運動器 (医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

**脳神経** 医療・介護・福祉・在宅における看護の対象では、高齢化と何らかのこの領域の問題を抱える方が多いという実情にあります。看護師を目指す皆さんの一助となる関わりができればと考えます。

**運動器** 運動器の解剖生理を復習しておいてください。看護過程で学んだ事例について復習しておきましょう。

**1. 授業科目 成人看護学援助論Ⅳ****2. 担当者名****3. 配当年次等** 2 年次 単位数：1 時間数：30**4. 学習目的・目標**

- 目標**
1. 消化器の特徴をふまえて人間の基本的ニード「食」「排泄」について考えることで消化器疾患患者を理解し、看護の役割を考える。
  2. 消化器疾患における症状と病態生理をふまえたうえで、各疾患患者の看護を習得する。
  3. 血液・造血器疾患および免疫・アレルギー疾患患者の特徴と看護について、理解することができる。
  4. 成人期にある対象の事例を通して、健康状態に応じた看護について理解することができる。

**5. 授業内容** [※1回は1コマ(90分)の授業です]

|      |                             |                |
|------|-----------------------------|----------------|
| 第1回  | 医療の動向、消化器疾患をもつ患者の理解         |                |
| 第2回  | 症状、検査・治療に対する看護              |                |
| 第3回  | 食道・胃・十二指腸疾患患者の看護            |                |
| 第4回  | 胆嚢・肝臓・膵臓疾患患者の看護             |                |
| 第5回  | 腸・腹膜疾患患者の看護                 |                |
| 第6回  | 人工肛門造設患者の看護 ストーマ管理 (講義)     |                |
| 第7回  | 人工肛門造設患者の看護 ストーマ管理 (演習)     | <b>到達度Ⅱ</b>    |
| 第8回  | 基礎知識の確認                     | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
| 第9回  | 自己免疫疾患患者の看護 (SLE)           | 成人看護学 (11)     |
| 第10回 | 造血器疾患看護 (白血病)               | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
| 第11回 | 事例 (治療検査症状の理解)              | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
| 第12回 | 事例 (経過の理解)                  | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
| 第13回 | 造血幹細胞移植を受ける患者の看護            | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
| 第14回 | 闘病体験についてお話を伺う               | (日本骨髄バンクより)    |
| 第15回 | 輸血療法を受ける患者の看護               | 成人看護学 (4) 臨床検査 |
|      | 熱傷患者の看護                     | 成人看護学 (12)     |
| 試験   | 消化器、血液・造血器・免疫アレルギーごとに30分で実施 |                |

※演習は必ず出席すること

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用****8. 評価方法****消化器** 筆記試験**血液ほか** 筆記試験**9. 教科書****消化器** 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5)消化器 (医学書院)**血液ほか** 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4)血液・造血器 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(12)皮膚 (医学書院)

系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)

**10. 参考文献**

成人看護学 救急看護 (ヌーヴェルヒロカワ)

病気がみえる vol.5 血液 (メディックメディア)

解剖生理学の教科書を随時確認してください

**11. 学生へのメッセージ****消化器** 基本的ニードを理解し全体像を捕らえた看護と一緒に考え、学んでいきたいと思えます。事前に解剖生理学の学習を振り返っておいてください。**血液ほか** 事前に血液・免疫・皮膚に関する解剖生理学の知識をおさらいしておいてください。事例を活用することで、対象の病状を理解し、看護につなげていきましょう。

## 1. 授業科目 老年看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 1年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標
1. 高齢者の生理的変化の特徴を理解することができる。
  2. 老いの疑似体験を通し、高齢者の生活の困難さを知ることができる。
  3. 高齢者の生活の多様性が理解できる。
  4. 高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。
  5. 老年看護の基盤が理解できる。

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

#### ★高齢者の理解

- 第1回 高齢者とは  
第2回 高齢者にとっての健康とQOL  
第3・4回 老いの疑似体験  
第5・6回 加齢に伴う変化(身体機能・心理、精神的機能) グループワーク  
第7回 高齢者とのコミュニケーション  
第8回 加齢に伴う変化(社会的機能)

#### ★高齢者を取り巻く社会

- 第9回 高齢者と家族  
第10回 高齢者を支える制度  
第11回 高齢者を支える社会資源

#### ★高齢者看護の基本

- 第12回 高齢者看護の特徴  
第13回 高齢者看護に関わる諸理論・倫理  
第14回 高齢者のフィジカルアセスメント  
第15回 まとめ  
試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験および提出物(レポート等)により評価する

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害(メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践(メディカ出版)  
国民衛生の動向(厚生労働省統計協会)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

高齢者の特徴、高齢者にとっての健康、老いるとはどういうことかを考えていきたいと思います。  
超高齢社会の現状を把握していきましょう。

## 1. 授業科目 老年看護学援助論 I

### 2. 担当者名

3. 配当学次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標**
1. 加齢がもたらす日常生活への影響や障害を理解することができる。
  2. 持てる力を最大限に活かし、健康維持・増進のための日常生活援助の方法を理解することができる。

### 5. 授業内容 [＊1回は1コマ(90分)の授業です]

#### ★高齢者の生活を支える看護

- 第1回 高齢者の歩行・移動
- 第2回 **演習：移動** (研修1コマ)
- 第3回 高齢者の食事・食生活
- 第4回 高齢者の清潔と衣生活
- 第5回 **演習：食事と清潔** (研修1コマ)
- 第6回 高齢者の排泄
- 第7回 **演習：オムツ交換と陰部洗浄** (研修1コマ)
- 第8回 高齢者のコミュニケーション
- 第9回 高齢者の休息
- 第10回 高齢者の活動とレクリエーション①
- 第11回 高齢者の活動とレクリエーション②
- 第12回 **演習：高齢者の活動とレクリエーション** (研修1コマ)

#### ★認知機能障害のある高齢者の看護

- 第13回 認知症・うつ病・せん妄① グループワーク
- 第14回 認知症・うつ病・せん妄②
- 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

※演習は必ず出席すること

### 6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験および提出物 (レポート等) により評価する

### 9. 教科書

- ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 (メディカ出版)
- ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 (メディカ出版)
- 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

老年期の対象が持つ能力を捉え、可能な限り自立した日常生活を送るための援助の方法を学んでいきたいと思っております。

1. 授業科目 老年看護学援助論Ⅱ

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標**
1. 高齢者の主な疾病や障害の特徴と治療について理解できる
  2. 高齢者の疾病や障害の現れ方の特徴について理解できる
  3. 治療を受ける高齢者の看護について理解できる

5. 授業内容 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

★高齢者の症状・疾患を支える看護

- 第1回 脱水症・低栄養
- 第2回 掻痒感・痛み・しびれ
- 第3回 感染症
- 第4回 骨粗鬆症・骨折
- 第5回 廃用性症候群・褥瘡
- 第6回 肺炎・慢性閉塞性肺疾患
- 第7回 高血圧・脳卒中
- 第8回 不整脈・心不全
- 第9回 認知症のある高齢者の看護①
- 第10回 認知症のある高齢者の看護②
- 第11回 パーキンソン病
- 第12回 貧血・浮腫・電解質異常

★治療を受ける高齢者の看護

- 第13回 高齢者のリハビリテーション・行動制限
- 第14回 高齢者にとっての診察・検査・入院・退院
- 第15回 高齢者看護実習の基本
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義およびグループワーク

7. 視聴覚機器の活用

パソコン（PowerPoint）

8. 評価方法

筆記試験8割、小テスト2割

9. 教科書

- ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害（メディカ出版）
- ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践（メディカ出版）

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

高齢者の主要な疾患や障害について学びながら、対象に必要な看護について一緒に考えていきたいと思えます。



# 成人・老年看護学実習

## さまざまな看護を知る実習 1 (40)

|    |   |
|----|---|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期における看護の実際を見学し、生活の再構築への支援について考えることができる</li> <li>慢性期における看護の実際を見学し、生活につなげる看護について考えることができる</li> <li>ターミナルケアにおける看護の実際を見学し、人生の最後の生活を看護者としてどう支援できるのかを考えることができる</li> <li>今までの実習での学びをふまえ、それぞれの看護の役割を考えることができる</li> </ul>   |
| 内容 | <p>急性期：救急外来・ICU・手術室などを見学し、患者さんの突然の変化（身体的、精神的、環境、生活）に対し、どの様なサポートや看護をされているのかを知る。また、生活の再構築への支援について考える。</p> <p>慢性期：透析室・糖尿病外来・化学療法室などを見学し、入院患者だけでなく、外来通院しながら、治療と生活をどの様に折り合いをつけながら生活されているのかを知る。また、看護としてどの様にサポートされているかを学び、生活につなげる看護について考える。</p> <p>ターミナル期：緩和ケア病棟を見学し、終末期看護の実際を学ぶ。終末期の患者の苦痛や不安（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）に対してどの様に関わっているのかを知る。人生の最後の生活を看護としてどの様に支えることができるかについて考える。</p> |

## 成人・老年看護学実習 I 2 (80)

|    |  |
|----|--|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>受持ち患者の問題を考え、必要な援助を行う。</li> <li>健康段階、発達段階をふまえた援助を考えることができる。</li> </ul>   |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>成人期・老年期の特徴を理解する</li> <li>受持ち患者の発達段階、各健康段階を理解する</li> <li>発達段階、健康段階に必要な援助を考える</li> <li>受持ち患者の生活習慣を理解し、健康の保持・増進を目指す看護を考える</li> <li>患者の今の問題点を解決するための援助を考える</li> <li>考えた援助を実施・評価・修正する</li> </ul> |

## 成人・老年看護学実習 II 2 (80)

|    |   |
|----|---|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>成人・老年看護学実習 I からの課題を理解し実習に臨むことができる。</li> <li>健康段階、発達段階をふまえ看護問題を抽出できる。</li> <li>問題を解決するための計画を立案し、実施することができる。</li> <li>実施したことを看護の視点で評価・修正ができる。</li> <li>疾患が患者の生活に及ぼす影響について考えることができる。</li> <li>医療チームの一員であることが自覚できる。</li> </ul> |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の発達段階、健康段階に適合した問題を考える</li> <li>看護問題を解決するための看護計画を立案する</li> <li>看護計画を実行し評価することで、患者にあった計画に近づける</li> <li>患者の生活習慣を理解し、健康の保持・増進を目指した援助を行う</li> <li>疾患が患者の生活にどのように影響するか考える</li> <li>医療チームの一員としての自覚を持つ</li> </ul>                |

# 小児看護学

|    |   |
|----|---|
| 目的 | 小児各期の成長・発達の特徴と、その課題を理解すると共に、様々な健康状態にある小児とその家族に対する看護の必要性と基本的な知識・技術・態度を学ぶ。  |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象を理解することができる。</li> <li>2. 小児各期の成長・発達の特徴と、その課題を理解することができる。</li> <li>3. 小児の成長・発達を理解し、健康な日常生活を送るために必要な援助「日常生活の自立と世話」を理解することができる。</li> <li>4. 小児を取り巻く環境と、その意義について理解し、小児の成長発達段階に及ぼす影響を理解することができる。</li> <li>5. 小児看護の役割とは何かを理解することができる。</li> <li>6. 小児の保健医療の動向、健康の諸問題を理解することができる。</li> <li>7. 小児の成長・発達に応じた健康の保持・増進を目指した看護を理解することができる</li> <li>8. 小児が罹りやすい疾患を理解し、起こりやすい症状、検査、治療を理解し、看護に活かすことができる。</li> <li>9. 小児看護を実践するために必要な看護技術を学ぶことができる。</li> <li>10. 様々な健康状態に応じた小児とその家族に必要な看護を学ぶことができる。</li> <li>11. 小児を支える社会や、サポートシステムについて理解することができる。</li> <li>12. 健康障害がある小児に対して、看護を実践することができる。</li> </ol> |

## 1. 授業科目 小児看護学概論

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目的** 子どもの成長・発達や養育環境、および子どもの発達や健康をサポートする看護の役割機能を学び、小児看護の理念を育む

- 目標**
1. 小児各期の成長・発達の特徴を理解することができる。
  2. 小児を取り巻く環境とその影響を理解することができる。
  3. 小児保健の動向と現代社会の課題から法律・政策を理解することができる。
  4. 小児の基本的な生活習慣の確立や成長発達を促す援助を理解することができる。
  5. 発達段階による小児とその家族への支援を理解することができる。

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 小児の特徴と理念/小児と家族の諸統計
  - 第2回 子どもの成長・発達
  - 第3回 新生児期にある子どもの特徴
  - 第4回 乳児期にある子どもの特徴
  - 第5回 幼児期にある子どもの特徴
  - 第6回 学童期にある子どもの特徴
  - 第7回 思春期・青年期にある子どもの特徴
  - 第8回 各期における療育および看護(日常生活の世話)
  - 第9回 各期における療育および看護(事故防止・感染予防・遊びと学習・健康教育など)
  - 第10回 家族の特徴とアセスメント
  - 第11回 子どもと家族を取り巻く社会
  - 第12回 病気・障害をもつ子どもと家族の看護、子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護
  - 第13回 子どもにおける疾病の経過と看護
  - 第14回 子どものアセスメント
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義形式、グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint) DVD ビデオ

### 8. 評価方法

筆記試験7割、小テスト1割、課題2割

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論/小児臨床看護学総論(医学書院)  
病気がみえる vol.15 小児科(メディックメディア)

### 10. 参考文献

講義で提示

### 11. 学生へのメッセージ

小児看護は小児各期の成長発達を踏まえた子どもへのかかわり、そして子どもとともに成長していく家族をも対象としたかかわりが求められます。普段から様々な年齢の子どもたちにかかわる機会を意図的に作り、子どもたちの様子をよく観察してみましょう。また、小児に関する書籍、新聞、テレビ等を通して、小児と小児を取り巻く社会の現状に関心を持ちましょう。小児期は誰もが通ってきた道です。自分の経験も踏まえて子どもの成長発達の不思議、奥深さを一緒に楽しく学んでいきましょう。

## 1. 授業科目 小児看護学援助論 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標 1. 小児の疾患の特徴を理解することができる。  
2. 小児の主な症状、検査、治療を理解することができる。

### 5. 授業内容

[\* 1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 小児の生理学的特徴  
先天性疾患について(染色体異常[ダウン症候群]、先天性代謝異常 等)
- 第2回 新生児・低出生体重児の疾患について  
(呼吸窮迫症候群、壊死性腸炎、未熟児網膜症 等)
- 第3回 内分泌・代謝性疾患について(I型糖尿病 等)
- 第4回 免疫・アレルギー性疾患について  
(若年性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、気管支喘息 等)
- 第5回 感染症について(麻疹、風疹、細菌性感染症、ウイルス性感染症 等)
- 第6回 呼吸器疾患について(クループ症候群 肺炎 等)
- 第7回 循環器疾患について  
(先天性心疾患…ファロー四徴症、ボタロー管開存症等、川崎病、乳幼児突然死症候群 等)
- 第8回 消化器疾患について  
(唇裂・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症 等)
- 第9回 血液・造血器疾患について(急性リンパ性白血病、特発性血小板減少性紫斑病 等)  
悪性新生物について(小児に多い悪性新生物、神経芽腫 等)
- 第10回 腎・泌尿器疾患について(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 等)
- 第11回 神経疾患について(てんかん、熱性痙攣、脳性麻痺、二分脊椎症 等)
- 第12回 運動器疾患について(側弯曲症、先天性股関節脱臼 等)  
緊急時の対応(虐待について、熱傷 等)
- 第13・14回 子どもの精神疾患について(ADHD・ASD 等)
- 第15回 障害を持ちながら地域で生活する子どもの実際・制度  
試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義形式

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論/小児臨床看護総論(医学書院)  
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2)小児臨床看護各論(医学書院)  
病気がみえる vol.15 小児科(メディックメディア)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

子どもを知り、病気を知り、しっかりとした知識を習得し、子どもたち、そしてご家族に安心を与えられるように、がんばっていきましょう。

## 1. 授業科目 小児看護学援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標
1. 健康障害がある小児とその家族の看護を理解することができる。
  2. 外来受診や入院を必要とする小児とその家族の看護を理解することができる。
  3. 小児に多い症状に応じた看護を理解することができる。
  4. 検査・処置を受ける小児とその家族の看護を理解することができる。
  5. 急性期にある新生児の病態を学び、NICUの役割を知る。
  6. 障害がありながら地域で生活する子どもと家族への看護・支援が理解できる。

### 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 感染症と看護(ウイルス性感染・細菌性感染・麻疹・風疹・予防接種)
- 第2回 呼吸器疾患と看護(アレルギー疾患・喘息・肺炎・クループなど)
- 第3回 循環器疾患と看護(川崎病・ファロー四徴症・先天性心疾患など)
- 第4回 消化器疾患と看護(肥厚性幽門狭窄症・腸重積・鎖肛・口唇口蓋裂など)
- 第5回 血液疾患・悪性新生物と看護
- 第6回 代謝性疾患・内分泌疾患・腎泌尿器疾患と看護(1型糖尿病・ネフローゼ症候群など)
- 第7回 新生児の看護(未熟児の看護とNICU)
- 第8回 小児看護の必要な看護技術(プレパレーション・ディストラクション)
- 第9回 外来受診・入院を必要とする小児と家族の看護(乳児健診)
- 第10回 神経疾患と看護(てんかん・筋ジストロフィーなど)
- 第11回 精神疾患と看護(発達障害など)
- 第12回 先天性疾患と看護(ダウン症候群など)
- 第13回 重症心身障害児の看護
- 第14回 障がいがありながら地域で生活する子どもの実際・支援(医療的ケア児の対応・看護)
- 第15回 子どもの虐待と、事故・外傷の小児と家族の看護

### 6. 授業形式

講義形式 実習室利用 技術演習 グループワーク ロールプレイ

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint) ビデオ DVD

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論/小児臨床看護総論(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2)小児臨床看護各論(医学書院)

病気がみえる vol.15 小児科(メディックメディア)

### 10. 参考文献

看護視察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ(中央法規出版)

看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 専門Ⅱ小児看護①②(メディックメディア)

新生児の症状・所見マスターブック(メディカ出版)

写真でわかる小児看護技術アドバンス(インターメディカ)

### 11. 学生へのメッセージ

小児看護学概論で学んだ小児各期の成長発達をおさえた上で、疾病・障害をもつ小児に対しての発達段階に応じた看護とはどのようなものか、疾病や入院が小児や家族に与える影響について学んでいきましょう。

小児看護の知識は、自分が親になった時にも生かせる知識です。自分の子どもが病気や怪我をした時にも安心してかかわれるようしっかり知識や技術を身につけましょう。

子どもの素直さ、かわいらしさ、病気で頑張っている姿、その子供を取り巻く環境など臨床での体験を伝え、小児看護に興味を持ってもらえればと思います。

## 小児看護学実習 2(80)

|           |   |
|-----------|---|
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の成長・発達の特徴と、その課題を理解し、より良い成長・発達を遂げられるための援助方法を学ぶことができる。</li> <li>・障害の有無にかかわらず、様々な健康状態にある対象の特徴を理解し、看護を実践する能力を養うことができる。</li> <li>・障害の有無にかかわらず、様々な健康状態にある対象に必要な看護技術を理解することができる。</li> <li>・「子ども理解の視点」について考えることができる。</li> </ul>   |
| <p>内容</p> | <p>&lt;保育園・こども園&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども理解の視点」について考えることができる</li> <li>・発達段階の特徴と課題・環境要因について理解することができる。</li> <li>・発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・小児にとっての遊びの重要性を理解したかかわり、コミュニケーションをとることができる</li> <li>・基本的生活習慣を獲得するための保育・支援の重要性を理解できる</li> <li>・発達段階における健康教育、安全指導の実際を理解することができる。</li> <li>・保育現場と家族との関わり、連携について理解することができる。</li> </ul> <p>&lt;施設・病院・養護学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども理解の視点」について考えることができる。</li> <li>・対象の特徴・成長・発達・病態を理解することができる。</li> <li>・対象の発達段階に応じた援助・支援を考え、実施できる。</li> <li>・対象の発達段階・健康段階に応じた安全・安楽とは何かを考え援助することができる。</li> <li>・家族の思いに寄り添い対象を尊重した関りができる。</li> <li>・対象の発達段階に応じたプレパレーション・ディストラクションを行いながら基本技術・検査・処置の援助を実施することができる。</li> <li>・発達障害・健康障害が対象の成長・発達に与える影響と、家族に与える影響について、理解することができる。</li> <li>・対象を取り巻く医療、教育、福祉、の連携・継続支援の必要性を理解することができる。</li> <li>・医療チームと協働し、看護の役割を遂行し、実施した内容とその結果を正確に報告することができる。</li> </ul> |

# 母性看護学

|    |  |
|----|--|
| 目的 | 人間の生涯を通しての母性の概念を理解し、女性のライフサイクルにおける健康問題や、妊娠・分娩・産褥期にある対象の看護を学び、基礎的な知識、技術・態度を養う。  |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 母性看護の意義と役割について理解する。</li><li>2. 新しい生命の誕生や生と生殖に関する倫理観について考える。</li><li>3. 周産期の看護について理解し、健康生活を援助するための基礎的知識と技術、方法を学ぶ。</li><li>4. 母性の健康を守るための母子保健医療福祉の現状を知り、母性看護の役割について考える。</li></ol> |

**1. 授業科目** 母性看護学概論

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 2年次 単位数：1単位 時間数：30

**4. 学習目標**

**目的** 母性看護学の概要と女性の各ライフステージにおける健康問題とその看護を理解する。

- 目標**
1. 母性および父性の役割と社会との関連性が理解できる。
  2. 女性の生涯における健康問題を理解し、健康の維持・増進に向けた法律・制度が理解できる。

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 ガイダンス 母性看護の基盤となる概念
  - 第2回 リプロダクティブ・ヘルスに関する概念、女性や母子のケアに関する概念
  - 第3回 母性看護の対象に取り巻く社会の変遷と現状
  - 第4回 母性看護にかかわる法律
  - 第5回 母性看護にかかわる指標とその推移
  - 第6回 母性看護学に関連した倫理
  - 第7回 母性看護学に関連した倫理
  - 第8回 思春期・成熟期女性の健康と看護
  - 第9回 思春期・成熟期女性の健康と看護
  - 第10回 更年期・老年期女性の健康と看護
  - 第11回 DVについて
  - 第12回 家族計画
  - 第13回 性感染症とその予防
  - 第14回 海外の母子保健 在留外国人の女性について
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

**6. 授業形式**

講義・グループワーク

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン（パワーポイント）

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論（医学書院）

**10. 参考文献**

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

**11. 学生へのメッセージ**

女性のライフサイクル各期における健康と健康課題について学び、母性とは何か、一緒に考えていきましょう。また、母性に関する社会の動きや現状に関心をもち身近な問題としてとらえてほしいと思っています。



## 1. 授業科目 母性看護学援助論 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2 年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

**目的** 母性看護学における周産期の異常について学ぶ

**目標**

1. 周産期における正常経過と異常を理解する
2. 女性のライフサイクルにおける健康問題を理解する
3. 人間の性と生殖に基づく生殖医療を理解する
4. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常についての知識と看護に結びつけるアセスメント能力を獲得する
5. 妊娠・分娩・産褥・新生児について正常とタイアップしながら理解する。

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 月経周期の異常、その診断
  - 第2回 女性のライフサイクルにおける健康問題(性徴の異常・月経異常・更年期障害)
  - 第3回 婦人科疾患①(性感染症、子宮内膜症、子宮筋腫)
  - 第4回 婦人科疾患②(子宮癌、卵巣のう腫、卵巣癌、絨毛性疾患)
  - 第5回 性と生殖に基づく医療・不妊治療、出生前診断
  - 第6回 女性生殖器疾患をもつ対象の看護
  - 第7回 妊娠期の身体的特性・心理・社会的特性
  - 第8回 月経周期の調節機構、妊娠の成立
  - 第9回 正常な分娩の経過
  - 第10回 ハイリスク妊娠の概念及び妊娠中に注意すべきことについて
  - 第11回 産褥期の身体的変化と特徴(退行性変化・進行性変化)
  - 第12回 ハイリスクな分娩とはどのような分娩をいうのか、またその対応について
  - 第13回 産褥期の心理・社会的変化と特徴
  - 第14回 産褥期の疾患と正常からの逸脱について、胎児・新生児の異常について
  - 第15回 新生児の子宮外環境への適応
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義、グループワーク、質問形式

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint、動画あり)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

- 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論 (医学書院)
- 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2)母性看護学各論 (医学書院)
- 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9)女性生殖器 (医学書院)

### 10. 参考文献

- 病気がみえる vol.10 産科 (メディックメディア)
- 助産師業務要覧 第3版 2020年度版 (日本看護協会出版社)

### 11. 学生へのメッセージ

女性の一生はとてもダイナミックなものです。女性の一生の重要な時期である母性看護への理解を一緒に楽しく学びましょう。(漆野)

私の経験もふまえながら、母性看護学に必要な知識を提供できるように尽力します。(吉岡)

## 1. 授業科目 母性看護学援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

- 目標
1. 周産期にある母子の生理と看護を理解することができる。
  2. 周産期にある母子の異常と看護を理解することができる。
  3. 育児技術獲得への看護を理解することができる。
  4. 周産期にある母子の看護の事例を基に、看護過程の展開を理解することができる。

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 妊婦の健康生活とアセスメント
  - 第2回 妊婦と家族への看護
  - 第3回 妊娠期の健康問題に対する看護
  - 第4回 妊娠期のケアに必要な技術
  - 第5回 産婦の健康に関するアセスメント
  - 第6回 産婦と家族への看護
  - 第7回 分娩期の健康問題に対する看護
  - 第8回 褥婦と家族への看護
  - 第9回 産褥期の健康問題に対する看護
  - 第10回 褥婦の健康と生活のアセスメント
  - 第11回 早期新生児とその家族への看護
  - 第12回 早期新生児の健康問題への看護
  - 第13回 早期新生児のアセスメント
  - 第14回 新生児の育児技術、妊婦体験(演習)
  - 第15回 新生児の育児技術、妊婦体験(演習)
- 試験 60分で実施

到達度Ⅰ

到達度Ⅰ

### 6. 授業形式

講義 グループワーク 演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint)、講義内容によりDVD使用

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2)母性看護学各論(医学書院)  
ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)母性看護技術(メディカ出版)

### 10. 参考文献

系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1)母性看護学概論(医学書院)

### 11. 学生へのメッセージ

新しい家族を形成していく人たちを看護の視点で支えるとはどういうことなのか…講義の前に自分の考えをまとめておいてください。

## 母性看護学実習 2(80)

|           |  |
|-----------|--|
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の妊娠経過に応じた看護を考えることができる。</li> <li>・対象の分娩経過に応じた看護を考え実施することができる。</li> <li>・対象の産褥経過に応じた看護を考え実施することができる。</li> <li>・新生児の胎外生活適応過程を促進する看護を実施することができる。</li> <li>・周産期にある対象への看護の役割について考えることができる。</li> <li>・生命の尊厳について考える事ができる。</li> <li>・看護職者としての態度を身につけることができる。</li> </ul>   |
| <p>内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師、助産師に同行し妊婦の診察介助・保健指導の見学を行う</li> <li>・妊婦の許可が得られれば指導者とともに触診、計測診を実施する</li> <li>・観察・情報収集した内容より母体の妊娠経過と胎児の発育・健康状態について正常からの逸脱と妊婦の心理・社会的変化についてアセスメントする</li> <li>・妊婦健康診査の必要性や母子健康手帳の活用方法について知る</li> <li>・助産師に同行し産婦の看護の見学（実施）、分娩の見学を行う</li> <li>・出生直後の新生児の観察・処置を見学し胎外生活への適応を促進するための援助の必要性について考える</li> <li>・褥婦と新生児を受け持ち、母と児に必要な看護計画を立案し実施する</li> <li>・妊娠・分娩期の経過、褥婦の観察やコミュニケーションで得られた情報から産褥経過のアセスメントをする</li> <li>・褥婦の観察やコミュニケーションを通し褥婦の身体的・心理・社会的適応状態を理解する</li> <li>・褥婦の育児行動の観察、指導者の援助を見学し母親役割獲得促進の援助について考える</li> <li>・退院後の生活や育児についての保健指導を見学し家庭生活・社会生活への適応促進の援助について考える</li> <li>・新生児の生理的变化を判断するために必要な観察内容を理解する</li> <li>・妊娠・分娩経過、新生児の観察で得られた情報から新生児の生理的变化のアセスメントを行う</li> </ul> |

## 精神看護学

|    |   |
|----|---|
| 目的 | 精神看護の対象を理解し、精神に障害をもつ患者及び患者の家族に対する援助を実践するために必要な知識と技術を学ぶ。   |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 精神医療の歴史から精神保健医療の動向について理解し、これからの精神医療について考えることができる。</li><li>2. 人の心の発達と健康との関連、及び心の健康を維持する重要性について学ぶ。</li><li>3. 精神に障害をもつ患者とその家族に対する理解を深め、援助方法を学ぶ。</li><li>4. 精神に障害をもつ患者の社会復帰は、地域社会と結びついていることを理解し、保健、医療、福祉との関連について学ぶ。</li></ol> |

**1. 授業科目** 精神看護学概論

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. 精神に障害がある人を理解する。
  2. 心の発達と関連問題を理解する。
  3. 精神看護の目的、役割を理解する。
  4. 患者－看護師関係について理解する。
  5. 精神看護における法律を理解する。
  6. リエゾンナースの役割について理解できる。
  7. 精神障害者の地域生活を支える社会制度とその基盤となる考え方が理解できる。

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 心のケアと精神看護学①
- 第2回 心のケアと精神看護学②
- 第3回 精神に障害のある人の理解①
- 第4回 精神に障害のある人の理解②
- 第5回 心の発達と機能①
- 第6回 心の発達と機能②
- 第7回 心の発達と機能③
- 第8回 患者－看護者関係の理解①
- 第9回 患者－看護者関係の理解②
- 第10回 家族理解と看護
- 第11回 集団と看護
- 第12回 社会（文化）と精神障害①
- 第13回 社会（文化）と精神障害②
- 第14回 精神障害と法制度①
- 第15回 精神障害と法制度②
- 試験 60分で実施

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

パソコン（PowerPoint）、DVD ほか

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

- 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎（医学書院）
- 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2)精神看護の展開（医学書院）
- 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉（医学書院）

**10. 参考文献**

**11. 学生へのメッセージ**

精神に障害を持っているか否かにかかわらず、看護の対象となる人々（地域で暮らす人を含む）の多くが、心に課題やさまざまな特性を抱え生活しています。精神科領域ということにこだわらず、広く看護実践に活かせる講義をしていきたいと考えています。

1. 授業科目 **精神看護学援助論 I**

2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 後期 単位数：1 時間数：30

4. 学習目標

- 目標**
1. 精神に障害のある人の社会的・歴史的意味を理解する。
  2. 精神保健と医療の現状を理解することができる。
  3. 精神障害について理解する。
  4. 支援について理解できる。
  5. 精神医学的症状、徴候の聞き取りと把握。患者背景、環境の適切な把握ができる。
  6. 精神医学的症状を分類判別し、精神医学的患者評価ができる。
  7. 精神障害の疾患・症状・問題の特徴及び治療法を理解できる。

5. 授業内容 〔\* 1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 精神保健の考え方
- 第2回 精神疾患のあらわれ方①
- 第3回 精神疾患のあらわれ方①
- 第4回 精神科での治療  
(精神療法、薬物療法、電気けいれん療法、環境・社会療法)
- 第5回 社会のなかの精神障害
- 第6回 統合失調症、スペクトラム障害及びその他の精神病性障害群①
- 第7回 統合失調症、スペクトラム障害及びその他の精神病性障害群②
- 第8回 抗うつ障害群、双極性障害群及び関連障害群①
- 第9回 抗うつ障害群、双極性障害群及び関連障害群②
- 第10回 神経認知障害群①
- 第11回 神経認知障害群②
- 第12回 不安症群、強迫症及び関連症群治
- 第13回 食行動障害及び摂食障害群
- 第14回 パーソナリティ障害群
- 第15回 睡眠-覚醒障害群、せん妄
- 試験 60分で実施

6. 授業形式

講義

7. 視聴覚機器の活用

パソコン

8. 評価方法

筆記試験

9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎 (医学書院)

10. 参考文献

11. 学生へのメッセージ

精神医学は、内科や外科とは異なり、身体的アプローチと精神心理的アプローチの二つを学ぶ必要があります。患者さんに関わり、寄り添うことで、症状や行動として表現される徴候や変化を捉え、決して数値化できないという困難をこえて広がる世界は、皆さんにとって新しい刺激になると思います。精神医学の面白さを皆さんに伝えたいと思います。

## 1. 授業科目 精神看護学援助論Ⅱ

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：2 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

- 目標
1. 回復を支援するための看護について理解できる。
  2. 患者の安全をまもるためのリスクマネジメントについて理解できる。
  3. 精神科における看護の実際について理解できる。
  4. 治療的コミュニケーション技術を理解し、それらを効果的に活用できる。
  5. プロセスレコードを理解できる。
  6. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解ができる。
  7. 精神に障害のある患者への個別的な看護を考えることができる。

## 5. 授業内容

[\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 回復を支援するリカバリープログラム
  - 第2回 安全を守る
  - 第3回 統合失調症の看護
  - 第4回 気分障害の看護
  - 第5回 器質性精神疾患の看護
  - 第6回 不安障害、摂食障害、人格障害の看護
  - 第7回 急性期、慢性期の看護
  - 第8回 回復期、社会復帰の看護
  - 第9回 治療的コミュニケーションを理解する
  - 第10回 プロセスレコードを理解する
  - 第11回 プロセスレコードの演習と検討
  - 第12回 事例を用いて患者に必要な看護を考える①(精神看護の視点と考え方)
  - 第13回 事例を用いて患者に必要な看護を考える②(事例紹介・個人ワーク)
  - 第14回 事例を用いて患者に必要な看護を考える③(個人・グループワーク)
  - 第15回 事例を用いて患者に必要な看護を考える④(グループワーク・発表)
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義、個人・グループワーク

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験 グループワークレポート、授業への取り組み

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1)精神看護の基礎(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2)精神看護の展開(医学書院)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

精神科看護は全ての看護の基本となる、コミュニケーション・観察を学ぶ領域になります。人と人との関係がうまくいかないことが多いこの現代ですが、一緒に対人関係スキルを学び、看護師として対象と、どう向き合う事が必要か考えるきっかけになればと思います。

# 精神看護学実習

## 精神看護学実習 2 (80)

|    |  |
|----|--|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"><li>・精神に障害のある患者の理解を深め、患者－看護師関係を通して看護者の関わり方を学ぶ。</li><li>・地域で生活する精神に障害のある人を把握し作業所の果たす役割について考えることができる。</li></ul>  |
| 内容 | <p>&lt;病棟実習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・精神に障害のある患者の理解を深めることができる</li><li>・共感的態度を示し患者を受け入れることができる</li><li>・日常生活の自立状況を把握し必要な援助を実践する</li><li>・精神科看護における看護師の役割を理解する</li><li>・自己の内面に気づき自己洞察する</li></ul> |



## 地域・在宅看護論

|    |  |
|----|--|
| 目的 | 地域と地域に住む人々を理解する。また、地域・在宅看護の対象に対して、暮らしを支える地域包括支援システムの重要性や、社会資源の機能と特徴、看護職の役割や多職種連携・協働の方法を学ぶ。   |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 地域と地域で生活する人々の暮らしや環境を理解する。</li><li>2. 地域で生活する人々が自分らしい生活を送り続けるために必要な地域包括ケアシステムと生活の場における看護の方法を理解する。</li><li>3. 地域・在宅看護の対象とその家族を理解し、支援の必要性や看護職の役割を理解する。</li><li>4. 地域で暮らす在宅療養者を支えるための制度とその活用方法を理解する。</li><li>5. 在宅療養者の対象に合わせた看護過程の展開方法や看護の実際を理解する。</li><li>6. 多職種連携とチームで協働する必要性やチームにおける看護職の役割を理解する。</li></ol> |

## 1. 授業科目 地域・在宅看護概論

### 2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 地域・在宅看護の歴史や社会的背景を理解することができる
2. 地域・在宅看護の役割や機能、看護職のありかたを理解することができる
3. 在宅療養者と家族への支援の方法を理解することができる
4. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割や連携の方法を理解することができる
5. 地域療養を支える制度やその活用方法を理解することができる
6. 在宅看護や訪問看護の特徴を理解することができる

### 5. 授業内容

[\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- |      |                        |                                 |
|------|------------------------|---------------------------------|
| 第1回  | 1. 地域・在宅看護の概念          |                                 |
|      | 1. 地域と生活               | 2. 地域・在宅看護の背景 (1年次の講義・実習を振り返って) |
| 第2回  | 3. 地域・在宅看護の基盤          |                                 |
| 第3回  | 4. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能  |                                 |
| 第4回  | 5. 地域・在宅看護を展開するための基本理念 |                                 |
| 第5回  | 6. 地域・在宅看護における倫理       |                                 |
| 第6回  | 2. 在宅療養者と家族の支援         | 1. 地域・在宅看護の対象者                  |
| 第7回  |                        | 2. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件           |
|      |                        | 3. 在宅療養における家族のとらえ方              |
| 第8回  |                        | 4. 在宅療養者の家族への看護                 |
| 第9回  | 3. 地域療養を支える制度          | 1. 社会資源の活用 2. 医療保険制度            |
|      |                        | 3. 後期高齢者医療制度                    |
| 第10回 |                        | 4. 介護保険制度 5. 生活保護制度             |
| 第11回 |                        | 6. 障害者に関する法律 7. 難病法             |
| 第12回 |                        | 8. 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源          |
|      |                        | 9. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源         |
|      |                        | 10. 高齢者施策                       |
| 第13回 | 4. 在宅療養者を支える訪問看護       | 1. 在宅看護の特徴                      |
| 第14回 |                        | 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション           |
| 第15回 | まとめ                    |                                 |
| 試験   | 60分で実施                 |                                 |

### 6. 授業形式

講義

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

### 8. 評価方法

筆記試験、課題

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)地域療養を支えるケア (メディカ出版)  
看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護 (中央法規出版)

### 10. 参考文献

訪問看護お悩み相談室 (中央法規出版)

### 11. 学生へのメッセージ

地域・在宅看護の基礎となる概念や様々なシステムを理解し、在宅看護の特徴を学んでいきましょう。

## 1. 授業科目 地域・在宅看護援助論 I

## 2. 担当者名

3. 配当学年等 2 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

**目的** ・多様化する在宅看護を理解し、訪問看護師の役割を理解する

**目標** ・在宅における療養環境を理解し、療養者の生活に沿った看護を理解する  
・在宅看護の基礎知識を理解し、状況別・在宅看護援助のスキルを理解する  
・療養者の生活状況を理解し、看護の問題点を理解できる

## 5. 授業内容 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 訪問看護ステーションについて概要を知る
- 第2回 在宅における感染対策について理解する・フィジカルアセスメント
- 第3回 高齢者の理解と在宅における環境の理解・アセスメント
- 第4回 排痰方法・手技を理解する
- 第5回 吸引の手技を理解し実施できる
- 第6回 気管カニューレ・在宅人工呼吸法の理解と看護
- 第7回 在宅酸素療法の理解と看護
- 第8回 在宅持続皮下注入法・在宅中心静脈栄養法の理解と看護
- 第9回 経管栄養法(経鼻・PEG)の管理と看護
- 第10回 膀胱留置カテーテルの管理、膀胱洗浄(手動式)
- 第11回 ストーマの管理と看護、インスリン療法と看護
- 第12回 褥瘡ケアと看護
- 第13回 褥瘡改善・予防のポジショニング、安楽な体位の理解
- 第14回 持続携帯式腹膜透析(CAPD・APD)における管理と看護
- 第15回 摂食嚥下障害看護を理解する
- 試験 60分で実施

## 6. 授業形式

講義・グループワーク

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint)・DVD

## 8. 評価方法

筆記試験10割

## 9. 教科書

よくわかる在宅看護(Gakken)

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)地域療養を支えるケア(メディカ出版)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

訪問看護はフィジカルアセスメントが重要です。

「看護の基本となるもの」を理解しておきましょう。

## 1. 授業科目 地域・在宅看護援助論Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当学年等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 地域包括ケアシステムを理解し在宅療養を支える在宅看護の特徴と役割を学ぶことができる
2. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の必要性を理解することができる
3. 在宅療養者の疾患や障害の状態から予測・予防をふまえた支援の必要性を学ぶことができる
4. 在宅看護における安全と健康危機管理の方法を理解することができる
5. 在宅療養者の生活をふまえた、訪問看護における看護過程の方法を理解することができる

### 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 3-2. 地域包括ケアシステム
- 第2回 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
- 第3回 5. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント
- 第4回 6. 事例：地域の課題解決に発展したケース
- 第5回 4-11. 事例：パーキンソン病患者の在宅復帰に向けた支援
- 第6回 5-3. 訪問看護サービスの展開
- 第7回 4. 訪問看護の記録  
5. 事例：療養場所の移行や病状の変化に応じた訪問看護
- 第8・9回 7. 在宅における援助技術 1. 2. Fさん(フレイル)の事例から考える
- 第10回 6. 在宅看護における安全と健康危機管理  
滋賀県地域防災計画・BCP
- 第11回 8. 地域・在宅看護の動向と今後の発展
- 第12～15回 看護過程
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義・見学・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

### 8. 評価方法

試験を中心に課題やレポート等を評価

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)地域療養を支えるケア(メディカ出版)  
看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護(中央法規出版)

### 10. 参考文献

訪問看護お悩み相談室(中央法規出版)

### 11. 学生へのメッセージ

在宅看護は、地域で暮らす療養者と家族を対象に看護が展開されます。自立支援とは何か、その人らしい生活とは何かを考えながら、他職種と連携・協働するなかで、看護の方法や実際に学んでいきましょう。

## 1. 授業科目 地域における暮らしと環境

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 1 年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

- 目的** 地域における人々の暮らしを理解し、地域環境や暮らしを支える公的支援と生活への影響を学び、地域・在宅看護の必要性を考える
- 目標**
1. 「暮らし」に関する地域の特徴を理解することができる
  2. 住民の「暮らし」を理解することができる
  3. 地域の特徴から住民の生活への影響を理解することができる
  4. 地域と住民の特徴を理解し、住民の抱える問題を考えることができる

## 5. 授業内容

[\* 1回は1コマ(90分)の授業です]

- |      |               |  |
|------|---------------|--|
| 第1回  | 地域・在宅の概念      | 1. 地域と生活   |
| 第2回  |               | 1-1 生活のとらえ方  |
| 第3回  |               | 1-2 地域のとらえ方  |
| 第4回  |               | 1-3 地域、生活と健康の関係性   |
| 第5回  |               | 1-4 地域を「みる」－実際の町を例に  |
| 第6回  | 地域・在宅看護の背景    | 1. 社会的背景と国民の価値観の変容   |
| 第7回  |               | 2. 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題   |
| 第8回  | 地域アセスメント      | 1-1 地域アセスメントとその意義  |
| 第9回  |               | 1-2 地域アセスメントの活用  |
| 第10回 |               | 1-3 地域アセスメントの方法  |
| 第11回 | 暮らしに影響する環境を知る | 大津市・高島市の地域を調べる(世代別のテーマを決定)<br>1. 人口統計・出生率・有病率・死亡率・健診受診率・介護保険データ等 |
| 第12回 | 暮らしに影響する環境を知る | 大津市・高島市の地域を調べる<br>2. 八つのサブシステム                                   |
| 第13回 | 暮らしに影響する環境を知る | 大津市・高島市の地域を調べる<br>3. 認知機能・運動機能・抑うつ・閉じこもり・主観的健康感等                 |
| 第14回 | 暮らしに影響する環境を知る | 分析・まとめ   |
| 第15回 | 暮らしに影響する環境を知る | P.Pにて発表  |
| 試験   |               | 60分で実施   |

## 6. 授業形式

講義

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン、DVD

## 8. 評価方法

試験、課題、レポート

## 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)在宅療養を支えるケア(メディカ出版)  
看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護(中央法規出版)

## 10. 参考文献

よくわかる在宅看護(学研メディカル秀潤社)

## 11. 学生へのメッセージ

私たちが毎日過ごしている「地域」や「暮らし」について考え、「暮らしやすい地域」「生活」とはどのようなものであるか、地域や環境が人々の生活にどのような影響を与えているか学んでいきましょう。そして、何事も興味をもって取り組むこと、自己の考えを持ち発言することを心掛けましょう。

## 1. 授業科目 地域で生活する人と看護

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目標

1. 地域包括ケアシステムを理解し、イメージすることができる
2. 地域の支援事業とその内容を理解することができる
3. 医療施設・介護施設・居宅介護サービス等の種類や内容を理解することができる
4. 療養の場の移行に伴う継続看護の重要性と看護の役割や連携を理解することができる
5. 生活の場でのアセスメントの方法を学ぶことができる

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護  
1. 地域アセスメント 2. 地域包括ケアシステム
- 第2回 高島市・大津市の支援事業をグループごとに調べまとめる
- 第3回 (高齢者・障害者・母子などすべての住民に対して)
- 第4回 地域の支援事業を PowerPoint にて発表
- 第5回 施設の種類と機能をグループごとに調べまとめる (入所型・通所型・訪問型)
- 第6回 " (地域密着型)
- 第7回 施設の種類と機能について PowerPoint にて発表
- 第8回 3-3. 療養の場の移行に伴う看護
- 第9回 退院から在宅への移行 (安心して療養生活を送れるような看護や支援を考える)
- 第10回 事例 1. 入院から退院時の状況を理解する 2. 訪問看護の役割と連携
- 第11回 3. ケアプランを考える
- 第12回 4. 各サービス・入退院時の報酬について理解する
- 第13・14回 生活の場でのアセスメント (事例から考える)
- 第15回 訪問時の基本マナー

### 6. 授業形式

講義・グループワーク

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン・DVD

### 8. 評価方法

試験を中心に課題やグループ発表、レポート

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1)在宅療養を支えるケア (メディカ出版)  
看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護 (中央法規出版)

### 10. 参考文献

### 11. 学生へのメッセージ

地域包括支援システムや療養の場、各サービスの理解を深め継続看護の必要性を学びましょう

# 生活する人を知る実習 1(30)

|           |  |
|-----------|--|
| <p>目標</p> | <p>(1) 地域で暮らす人々の生活を見学・体験することで、「暮らし」を理解することができる</p> <p>(2) 地域で生活する人々とふれ合いインタビューすることで、人と人との関わり結びつき、助け合いながら生活していることを理解し、それらがインフォーマルな人的資源となることや「地域共生社会」につながっていくことを学ぶことができる。</p> <p>(3) 地域で関わった人々の生活や環境、生活背景を知り、価値観や暮らしに対する思い、ニーズや問題について考えることができる。</p> <p>(4) 地域と地域で暮らす人々を理解し、住民がその人らしく生き生きと生活するために、公的な支援や看護の重要性を考えることができる。</p>   |
| <p>内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治連合会や社会福祉協議会等の活動目的を理解し、「まちづくり協議会」の施設や地域の商店・団体を訪問し、趣味や健康活動、教育や労働等、生活されている場面を見学・参加する。そこから、地域や生活されている住民の特徴、健康で生き生きと生活するために何が必要かを考える。</li> <li>・地域のさまざまな場所に行きフィールドワークを行う。そこにおられる人々にインタビューを行い、住民の特徴を調査する。地域に住む住民の生活や健康についての認識、保健行動に対する知識や公的対策の満足度などを知り、住民のニーズや価値観・満足度を知る。</li> <li>・地域の特徴について情報収集した内容をまとめ、地域に住む人や住民同士のつながり、関係人口を増やす地方自治体の取り組みを理解する（レポート作成し提出）。</li> <li>・「生活する人と地域」について、学内でグループワークを行い、情報共有し学びを深める（グループごとに発表）。</li> </ul> |

## 地域で生活する人と看護実習 2(60)

|           |   |
|-----------|---|
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康障害を持ちながら、地域で生活している人を理解することができる。</li> <li>様々なサービスを利用しながら生活している療養者を理解し、サービスの必要性を理解する。</li> <li>地域包括支援システムが機能するなかで、在宅療養者がその人らしく生活するために必要な施設や支援を理解する。</li> <li>在宅療養者に対し信頼関係を作り出すような関わり方について理解することができる。</li> </ul>  |
| <p>内容</p> | <p>〈地域包括支援センター〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援システムの中心的役割を担っている地域包括支援センターにて実習を行い、地域包括支援センターの役割・機能を理解する。</li> <li>地域の特徴を踏まえて、地域包括支援センターの業務やその地域住民を支えるための地域支援事業の実際を学ぶ。</li> </ul> <p>〈各施設〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な施設を見学し、施設の特徴や役割・機能を理解する。</li> <li>在宅療養者がサービスを利用している場面を見学し、支援の必要性や方法を理解する。</li> <li>在宅療養者とコミュニケーションをとり、療養者の思いやニーズを知ることで、QOLやその人らしい生活とはどのようなものか考える。</li> <li>在宅療養者とスタッフの関わりを見学し、実際に在宅療養者と関わることで、信頼関係を構築するための関わりとはどのようなものかを理解する。</li> </ul> <p>〈実習場所〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センター</li> <li>地域密着型施設<br/>(通所介護、看護小規模多機能居宅介護、小規模多機能型居宅介護、グループホーム等)</li> <li>介護福祉施設<br/>(介護老人保健施設、特別養護老人ホーム)</li> <li>障害福祉サービス<br/>訓練等給付：就労支援事業所、自立支援事業所</li> </ul> |



## 地域・在宅看護論実習 2(80)

|           |   |
|-----------|---|
| <p>目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で療養する対象とその家族を理解し、医療と生活を支える訪問看護の役割と支援の方法やチームケアの必要性を理解することができる。</li> <li>・地域包括ケアシステムを理解し、地域療養を支えるために多職種・多機関連携の必要性と継続看護の重要性を理解することができる。</li> </ul>   |
| <p>内容</p> | <p>1日1～2名程度、在宅で療養する利用者宅を訪問看護師とともに訪問し、地域療養を支える訪問看護師の役割と対象に合わせた援助や支援の実際、在宅ケアチームとの連携・協働方法等を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性 <ul style="list-style-type: none"> <li>住民の生活環境・生活のニーズを知る</li> </ul> </li> <li>・訪問看護ステーションの役割と機能を学ぶ</li> <li>・訪問看護サービスの実際を理解する</li> <li>・看護技術の工夫を学ぶ</li> <li>・訪問リハビリや施設等の見学を行い、各サービスの役割や多職種連携について学ぶ</li> <li>・福祉用具の導入の実際と工夫を学ぶ</li> <li>・ケアマネージャーの役割と機能さんへの質疑応答から役割と機能を学ぶ</li> <li>・サービス担当者会議に参加し、利用者・家族の思いやニーズを理解し、より良いケアプランの決定方法や多職種の役割と連携方法を学ぶ</li> </ul> |

## 発達段階と健康状態別看護

|    |  |
|----|--|
| 目的 | 健康状態別看護及び治療別看護の実践力を身につける   |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学の知識を活用し、対象や様々な場面に応じた看護を理解する</li> <li>2. 各領域における薬物療法について、看護師の役割を理解する</li> <li>3. 手術を受ける患者の特徴と看護について理解する</li> <li>4. 各領域における周手術期の看護が理解できる</li> <li>5. 終末期にある患者や家族に対する看護師の役割やその看護について理解する</li> <li>6. 人生の最終段階に向かう家庭で、1つひとつ自分を失う苦しみをかかえながらも穏やかさを保つための看護について理解する</li> <li>7. 理論を用いて家族看護の視点や必要性を学ぶ</li> <li>8. 対象の発達段階や状態に応じた家族の理解、支援方法を理解する</li> <li>9. 対象とその家族のニーズを理解し、意思決定支援の必要性を理解する</li> <li>10. ヘルスプロモーションの考え方や活動方法について理解する</li> <li>11. ヘルスプロモーションにおける看護職の役割について学ぶ</li> <li>12. 課題に対し観察の視点を上げることができる</li> <li>13. 現象に対して客観的に観察することができる</li> <li>14. 観察を通して今起きていることを分析することができる</li> <li>15. 分析した結果から必要な援助を導き出すことができる</li> </ol> |

## 1. 授業科目 問題解決思考の活用と実践 I

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 問題解決思考を養うために、目で見たと現状に対して疑問を持ち、自分の頭で考え実践方法を導き出すための方法を学ぶ

**目標** 課題に対し観察の視点を上げることができる  
現象に対して客観的に観察することができる  
観察を通して今起こっていることを分析することができる  
分析した結果から必要な援助を導き出すことができる

### 5. 授業内容 [※1回は1コマ(90分)の授業です]

第1回 オリエンテーション

【1例目】患者の状態提示・事前学習

第2回 事例の観察 事例の分析

第3回 問題の抽出 必要な看護を考える

第4回 援助方法の立案 (文献を用いて方法を調べ学習する)

第5回 計画立案

第6回 援助の実践

第7回 評価・修正 振り返り

第8回 【2例目】患者の状態提示・事前学習

第9回 事例の観察 事例の分析

第10回 問題の抽出 必要な看護を考える

第11回 援助方法の立案

第12回 計画立案

第13回 援助の実践

第14回 評価・修正 振り返り

第15回 まとめ

### 6. 授業形式

グループワーク 演習

### 7. 視聴覚機器の活用

ビデオ

### 8. 評価方法

記録物・参加、取り組み状況

### 9. 教科書

未定

### 10. 参考文献

講義中紹介

### 11. 学生へのメッセージ

目の前の場面から、しっかりと根拠をもって必要な援助を考えられるようになってください。  
思い付きではなく、文献やテキストなどから援助方法を見つける習慣がつくといいと思います。

## 1. 授業科目 薬物療法と看護

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

目標 薬理学の知識を活用し、対象や様々な場面に応じた看護について学ぶ  
薬物療法における看護師の役割を実践的な事例を通して学ぶ

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

第1回 薬物療法の基礎と実際

第2～6回 状況に応じた薬物療法と看護(経口薬、経皮・外用薬の投与) **到達度Ⅰ・Ⅱ**

- ・循環動態に関わる薬剤の投与と調整
- ・栄養及び水分管理に関わる薬剤の投与と調整(脱水、利尿薬、糖質電解質輸液)
- ・インスリン投与時の注意点
- ・化学療法における看護
- ・医療事故を起こしやすい薬剤

第7～10回 薬物療法の実際

演習：座薬(解熱剤)を使用時の看護

**到達度Ⅱ**

第11回 小児と薬

第12回 妊娠と薬

第13回 高齢者と薬

第14回 在宅における薬剤管理の工夫

第15回 精神領域における薬

※演習は必ず出席すること!

## 6. 授業形式

講義、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

## 8. 評価方法

筆記試験、課題

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院)

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進②臨床薬理学(メディカ出版)

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1)小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)

系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2)小児臨床看護学各論(医学書院)

## 10. 参考文献

講義中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

看護師は与薬の実践者です。安全かつ有効な薬物療法を行うために必要な与薬の知識を一緒に考えていきましょう。

## 1. 授業科目 各発達段階における手術と看護

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目的・目標

目標 手術を受ける患者の特徴と看護について理解する  
各領域の周手術期看護（前・中・後）が理解できる

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ（90分）の授業です〕

- 第1回 外科看護とは 手術前検査と看護
- 第2回 手術看護とは（手術室）
- 第3回 麻酔看護とは（気管内挿管の介助含む）
- 第4回 術後合併症と看護（術後出血、術後せん妄、呼吸器合併症、縫合不全、術後感染症等）
- 第5回 創の治癒過程
- 第6回 術後の回復を支援する看護
- 第7回 ドレーン類の挿入部の処置（演習） 研修1コマ使用
- 第8回 手術患者の地域・在宅への移行に向けた看護
- 第9回 同上
- 第10回 手術を受ける高齢者の看護
- 第11回 同上
- 第12回 手術を受ける小児の看護
- 第13回 同上
- 第14回 緊急帝王切開における看護
- 第15回 同上

※演習は必ず出席すること

## 6. 授業形式

講義、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

DVD、パソコン

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）  
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）  
ゼロからわかる術前・術後ケア（成美堂出版）  
系統看護学講座 母性看護学(2)母性看護学各論（医学書院）  
ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版）

## 10. 参考文献

講義中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

手術に伴うリスク、回復のプロセスについて一緒に理解しましょう。

## 1. 授業科目 エンド・オブ・ライフ・ケア

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

- 目標**
- ・終末期にある患者や家族への看護について考えることができる。
  - ・全人的ケアについて理解することができる。
  - ・苦しみの中でも穏やかに過ごすための看護を考えることができる。
  - ・終末期患者の身体症状緩和に必要なアセスメントツールや薬物療法・ケアを理解し、看護師に求められる役割を学ぶ
  - ・終末期患者の病によるストレスや精神的な苦痛を理解し、その対処と支援について学ぶ

## 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 緩和ケアの歴史
- 第2回 緩和ケアにおける倫理的課題
- 第3回 緩和ケアにおけるチームアプローチ
- 第4回 緩和ケアにおけるコミュニケーション
- 第5回 全人的ケアの実践①身体的ケア(疼痛・消化器症状・全身倦怠感・呼吸困難など)
- 第6回 全人的ケアの実践②精神・心理的ケア(病によるストレスへの対応とその支援など)
- 第7回 全人的ケアの実践③スピリチュアルケア

演習；精神的安寧を保つためのケア **到達度 I**

- 第8回 ライフサイクルにおける緩和ケアの広がり：小児、思春期
- 第9回 ライフサイクルにおける緩和ケアの広がり：高齢者
- 第10回 様々な疾患における広がり
- 第11回 療養の場の広がり、住み慣れた地域での暮らしの支援
- 第12回 臨死期のケア
- 第13回 エンゼルケア
- 第14回 家族のケア(グリーフケア)
- 第15回 医療スタッフのケア

## 6. 授業形式

講義、スライドショーの視聴、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint)

## 8. 評価方法

筆記試験及びレポートにより評価

## 9. 教科書

系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)

## 10. 参考文献

講義中に紹介する

## 11. 学生へのメッセージ

「あと1日のいのちではなく、その1日のいのちを支える」看護について学びましょう。看護は手と目で護ること。知識だけでなく、ケアリングの姿勢の大切さを学んでほしい。

**1. 授業科目** ファミリー・ケア

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等** 2年次 単位数：1 時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. 理論を用いて家族看護の視点や必要性を学ぶ
  2. 対象とその家族の関係性を理解し、かかわっていく必要性を学ぶ
  3. 対象の発達段階や状態に応じた家族の理解、支援方法を学ぶ
  4. 対象とその家族のニーズを理解し、意思決定支援の必要性を学ぶ

**5. 授業内容** 〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1回 なぜ家族看護を学ぶのか
- 第2回 家族の構造と機能
- 第3回 家族を理解するための理論と介入方法
- 第4回 急性期患者の家族看護
- 第5回 急性期患者の家族看護
- 第6回 小児期の家族看護
- 第7回 小児期の家族看護
- 第8回 精神疾患の家族看護
- 第9回 精神疾患の家族看護
- 第10回 高齢の患者の家族看護
- 第11回 高齢の患者の家族看護
- 第12回 周産期に関する家族看護
- 第13回 周産期に関する家族看護
- 第14回 地域・在宅における家族看護
- 第15回 地域・在宅における家族看護

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

系統看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)  
看護がみえる vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)

**10. 参考文献**

講義中に紹介

**11. 学生へのメッセージ**

**1. 授業科目**      **ヘルスプロモーション**

**2. 担当者名**

**3. 配当年次等**    2年次      単位数：1      時間数：30

**4. 学習目標**

- 目標**
1. ヘルスプロモーションの考え方や活動方法について学ぶ
  2. ヘルスプロモーションにおける看護職の役割について学ぶ

**5. 授業内容**      [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回    ヘルスプロモーションの基本と健康政策
- 第2回    ヘルスプロモーションの場と看護
- 第3回    健康教育に必要な考え方・理論
- 第4回    健康行動に必要な理念
- 第5回    ライフサイクルにおける健康教育
- 第6回    健康教育の実践
- 第7回    健康教育の実践
- 第8回    生活習慣におけるヘルスプロモーション：食生活・運動・睡眠
- 第9回    生活習慣におけるヘルスプロモーション：排泄・清潔・歯口腔
- 第10回    小児のヘルスプロモーション
- 第11回    成人のヘルスプロモーション
- 第12回    高齢者のヘルスプロモーション
- 第13回    女性のヘルスプロモーション
- 第14回    精神のヘルスプロモーション
- 第15回    地域のヘルスプロモーション

**6. 授業形式**

講義

**7. 視聴覚機器の活用**

**8. 評価方法**

筆記試験

**9. 教科書**

新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション (メヂカルフレンド社)  
看護がみえる vol.5 対象の理解 I (メディックメディア)

**10. 参考文献**

講義中に紹介

**11. 学生へのメッセージ**



## 看護の統合と実践

|    |  |
|----|--|
| 目的 | 組織の一員として看護に関わること、臨床に近い状況において、安全を意識しながらその場その時の状況に合わせた臨床判断能力を身につけ、時代の変化に伴い看護の領域が国際的な広がりを見せていることを理解し、災害時における看護活動に対応できる基礎的知識を身につける。  |
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故の重大性や危険性を予測し、確実に予防する知識を養う。</li><li>2. 思考と実践する力を身につけ、臨床判断能力を養う。</li><li>3. 災害による社会の変化と課題ならびに看護の役割を理解し、看護活動に参加できる基礎的な知識、技術を身につける。</li><li>4. 国・地域・民族など文化の違いにより、望むケアが異なること患者や住民を理解し、その文化に適したケアを提供できる基礎的知識を身につける。</li></ol> |

## 1. 授業科目 医療安全

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 2年次 単位数：1 時間数：30

### 4. 学習目的・目標

**目的** 医療安全についての基礎知識を習得し、事故防止について理解し取り組むことができる。

- 目標**
1. 医療安全の考え方を理解し、看護師として担う責任を理解できる。
  2. 事故の発生要因を理解し、間違いを犯さない技術や自己モニタリング方法を学習する。
  3. 安全文化について学び、チームの一員として自覚と責任をもつことの重要性を理解する。
  4. 患者の権利や安全を守るための看護の方法を理解する。

### 5. 授業内容

[\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 医療安全の意味と歴史を学ぶ
  - 第2回 事故発生メカニズムとリスクマネジメントを学ぶ チームステップスについて学ぶ
  - 第3回 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 医療機器と事故防止について学ぶ
  - 第4回 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 感染管理について学ぶ
  - 第5回 医療安全の最近の動向と考え方を学ぶ
  - 第6回 事故分析方法について学ぶ
  - 第7回 リハビリテーションの役割と転倒転落防止について学ぶ
  - 第8回 看護における医療事故と安全対策 1
  - 第9回 薬剤センターにおける事故防止の考え方(輸血、アナフィラキシー等含む)
  - 第10回 看護における医療事故と安全対策 2
  - 第11回 在宅看護における医療事故と安全対策
  - 第12回 医療事故後の対応 看護学生の実習と安全
  - 第13回 危険予知活動(KYT)を学ぶ
  - 第14回 危険予知活動(KYT) グループワーク
  - 第15回 まとめ
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

### 7. 視聴覚機器の活用

パソコン(PowerPoint)

### 8. 評価方法

筆記試験

### 9. 教科書

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)医療安全(メディカ出版)

### 10. 参考文献

医療安全超入門 日本リスクマネジメント学会監修(学習研究社)

医療安全ワークブック 川村治子著(医学書院)

医療における危険予知訓練マニュアル 医療KYT研究会著(安井電子出版)

Safety-1 & Safety-2 安全マネジメントの過去と未来 エリック・ホルナゲル著(海文堂出版)

### 11. 学生へのメッセージ

医療の高度化・専門家に伴い、看護師が医療事故遭遇するリスクは高まっています。学生においても実習で患者・家族と関わる中でヒヤリとするような場面に遭遇する可能性は大いにあります。医療安全の基礎知識を学んだ上で実習に取り組むことが、患者やその家族の安全を守ることに繋がります。また、学生自身も安心して病院実習に取り組み利用にリスク対策について学んでください。

## 1. 授業科目 問題解決思考の活用と実践Ⅱ

### 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：2 時間数：45

### 4. 学習目標

- 目標**
1. 治療や検査、ケアにおける場面設定に対し演習を通して危険予知ができる。またディスカッション等で解決方法を考える事ができる。
  2. 複数受け持ちや時間の切迫場面の事例を通して、優先順位や時間管理について学ぶ・下級生への指導を通して、説明力、指導力を身につける。

### 5. 授業内容

〔\*1回は1コマ(90分)の授業です〕

- 第1・2回 オリエンテーション  
危険予知①【※①②③ともに考えられる危険とその対処方法を考える】
- 第3・4回 危険予知②
- 第5・6回 危険予知③
- 第7～10回 優先順位と時間管理 こんなときどうする？を考える
- 第11・12回 1年次の後輩への演習指導
- 第13・14回 複数の患者に対する事例を考える 情報の整理
- 第15・16回 関連図における全体像の把握
- 第17・18回 行動計画の立案と看護計画の立案
- 第19回 申し送りからの修正
- 第20・21回 課題に応じた実践
- 第22回 デブリーフィング
- 第23回 まとめ(45分)
- 試験 60分で実施

### 6. 授業形式

講義・グループワーク・演習

### 7. 視聴覚機器の活用

未定

### 8. 評価方法

提出物・実践場面・取り組み

### 9. 教科書

なし

### 10. 参考文献

講義中に紹介します

### 11. 学生へのメッセージ

問題解決思考の活用と実践Ⅰをふまえ、いま起こっている状況を把握するだけでなく、そこから予測されることを考えられる力を身につけてもらいたいと思います。時間軸の中でも広い視野を持って考えることができると、患者さんの安全・安楽をもっと提供できると思います。

## 1. 授業科目 国際看護と災害看護

## 2. 担当者名

3. 配当年次等 3年次 単位数：1 時間数：30

## 4. 学習目標

### 目標

1. 国際看護の概念を理解する
2. 世界の健康問題を理解する
3. 文化が異なることによるケアの違いを理解する
4. 国際看護活動の展開について理解する
5. 災害看護：災害時に支援できる看護の基礎的な知識について、理解することができる

## 5. 授業内容 [\*1回は1コマ(90分)の授業です]

- 第1回 国際看護とは
  - 第2回 世界の健康問題：人口問題、先進国と発展途上国の格差
  - 第3回 世界の健康問題：疾病負担からみた優先問題、感染症他
  - 第4回 ミレニアム開発目標と国際協力
  - 第5回 プライマリ・ヘルスケア 国際看護の基本概念
  - 第6回 異文化看護 在日外国人の看護
  - 第7回 国際看護活動の展開
  - 第8回 災害看護とは
  - 第9回 トリアージとは (講義)
  - 第10回 トリアージタグの書き方 (演習)
  - 第11回 災害サイクルと救護活動 (講義)
  - 第12回 災害サイクルと救護活動 (病院作り)
  - 第13回 " (演習)
  - 第14回 災害活動の実際 (東日本大震災救護活動)
  - 第15回 災害関連の法律・クラッシュシンドロームなど (災害時の特徴的な疾患)
- 試験 講師ごとに 30分で実施

## 6. 授業形式

講義、グループワーク、演習

## 7. 視聴覚機器の活用

パソコン (PowerPoint) DVD

## 8. 評価方法

筆記試験

## 9. 教科書

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3)災害看護学・国際看護学 (医学書院)  
看護学概論 看護追求へのアプローチ 第5版 (医歯薬出版)

## 10. 参考文献

## 11. 学生へのメッセージ

**災害看護** 災害はいつ起こるか解りません、どのような状況下で遭遇するか解らない災害に対し、意識を高め、災害時対応が出来るように、少しでも災害看護に興味を持ってもらえたらと思います。演習を交え、体験しながら学んで頂けたらと思います。

## 看護の統合実習 2(80)

|                  |   |
|------------------|---|
| <p><b>目的</b></p> | <p>統合分野の講義・実習で学んだ知識・技術・態度を臨床で活用できるための実践能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟の看護チームにおけるメンバー、リーダーの役割を通して看護の実際が理解できる。</li> <li>・複数患者の情報収集を行い、その日に実践する看護の内容と根拠がわかり、優先順位と時間管理について理解することができる。</li> <li>・その日の看護実践を振り返り評価、修正について報告、相談することができる。</li> <li>・卒業時に到達すべき看護技術を見学または実施することができる。</li> <li>・病棟看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際や他部門との調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ。</li> <li>・病棟における医療安全の実際を知ることができる</li> <li>・夜間における患者の状況や看護の実際が理解できる。</li> </ul>  |
| <p><b>目標</b></p> | <p>管理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟師長（課長）又は補佐（代行）と共に行動することで、病棟管理の実際、医療安全の実際、災害時の対応について学ぶ</li> </ul> <p>リーダー実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーと共に行動することでチームリーダーの役割の実際を見学し、チーム医療における業務の調整、看護実施に向けての指導調整、多職種や他部門との調整・連携について学ぶ</li> </ul> <p>夜間実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤看護師と共に行動することで夜間における看護の実際を見学し、夜間における看護の実際、患者の状況について学ぶ</li> </ul> <p>チームメンバー実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームメンバーについて援助を見学または指導下で一部実施することで、援助の実際、業務調整の方法や優先度の決め方を学ぶ</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数受け持ち実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>患者2名を受け持つことで、看護上の問題を捉え必要な援助を理解し、看護計画に基づいた援助を実施する。その内容を通して、看護における優先順位や時間管理の重要性、チームの一員としての報告連絡相談、協働を学ぶ</li> </ul> </li> </ul> |



イメージキャラクター“カタピョン”